
茶源郷和東オープンエアミュージアム
事業基本構想及び基本計画

「茶源郷 *Tea Park*」
～ 『地域テーマパーク型道の駅』創設へ向けて～

事業基本構想及び基本計画書

2024年3月

和東町

<目次>

1 Introduction		
1-1 本企画の背景・目的	3	
1-2 上位・関連計画における位置づけ	4	
2 Roadside Station		
2-1 背景・目的・基本コンセプト	5	
2-2 登録方法・整備フロー	6	
2-3 「道の駅」第3ステージ概要	7	
2-4 和束町が目指す「道の駅」の姿	8	
3 Current Situation		
3-1 位置	9	
3-2 鷲峰山トンネルの開通の影響	10	
3-3 人口動向	11	
3-4 産業の状況	12	
3-5 近隣の状況	14	
3-6 周辺の避難施設／ハザードマップの状況	16	
4 Assignment		
4-1 課題の整理	17	
4-2 期待できる効果	21	
5 Philosophy&Concept		
5-1 まちのミッション／ビジョン	22	
5-2 まちのブランディングアイデア	23	
5-3 コンセプトの具体的指針	24	
5-4 ポジショニングとコンセプト	25	
5-5 まとめ	26	
6 Function Standard		
6-1 「茶源郷 Tea Park」が目指す道の駅機能	27	
6-2 導入機能の基本方針	28	
6-3 導入機能のイメージ	29	
7 Location planning		
7-1 エリア全体の位置イメージ（案）	34	
7-2 エリア全体の位置と機能	35	
8 Business Scheme		
8-1 事業運営スキーム	36	
8-2 運営会社のイメージ	40	
9 Business Plan		
9-1 具体的事業プランと機能連携図	41	
9-2 具体的事業プラン案の内容	42	
10 Finance		
10-1 資金調達の方法	60	
10-2 期待される経済効果	61	
11 Action & Schedule		
11-1 今後のアクションとスケジュール	62	

Introduction ～はじめに～

(1-1) 本企画の背景・目的

産業の力は、地域活性化のエンジンともいえるものであり、雇用を伴う人口定住のための大きな条件ともなるものです。和束町は、お茶を基幹産業として“**お茶のまち和束**”としてこれまで様々な取り組みをおこなってきましたが、近年は観光や人的交流にも力を入れた展開をみせています。今後も『**お茶×α**』を基軸としたさらなる複合的な取組みとともに、足腰の強い産業づくりのための6次化への取り組みを推進し、和束ブランドの形成を含めた、“**まち全体がお茶のテーマパーク**”という考え方に基づいた様々な施策を展開していくことを想定し、本事業構想を進めてきました。

令和6年度鷲峰山トンネル開通に伴い、これまで以上に人と物の流れが発生することが予想され、こうした交通インフラの整備に伴う物流・人流の変化への対応を勘案する必要があります。こうした状況を踏まえつつ、和束町第5次総合計画の第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略に記された4つの基本施策の中の、特に「基本施策3／施策の方針4」の関係人口創出のための仕組みづくりとして提案された「**茶源郷和束オープンエアミュージアム構想**」の総合戦略で位置づけられた**交流拠点エリア**に「**地域テーマパーク型道の駅**」として「**茶源郷 Tea Park**」を構築することを想定して、本事業構想を策定するものです。

Introduction ～はじめに～

(1-2) 上位・関連計画における位置づけ

「和東町第5次総合計画／第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」

<IV お茶観光を軸とした交流の郷>

鷲峰山トンネル開通に伴い、様々な人と物の流れが発生することが予想され、このインパクトを効果的に受け止めるための以下に示す4つの基本施策を遂行するため、特に（基本施策3）波及効果を高める観光・交流産業の展開、（施策の方針4）新たな産業の創出、による**新たな関係人口創出のための仕組みづくり**として提案された「茶源郷和東オープンエアミュージアム構想」に沿い、総合戦略で位置づけられた交流拠点エリアに「地域テーマパーク型道の駅」として「茶源郷 Tea Park」を構築することを本構想では目指します。

●基本施策1 農林業の振興

- 1 生産基盤強化への支援
- 2 担い手の育成と援農の推進
- 3 和東茶ブランドの確立と多彩な販売ルートづくり
- 4 林業の保全及び複合的展開の促進

●基本施策2 活力を生み出す商工業の振興

- 1 和東町商工会への支援
- 2 人と環境にやさしい商業展開への支援
- 3 鷲峰山トンネルの開通等を活かした企業誘致や事業の創造

●基本施策3 波及効果を高める観光・交流産業の展開

- 1 地域の資源を光り輝かせる
- 2 おもてなしの受け入れ体制の充実
- 3 魅力を発信するイベントと情報提供の強化
- 4 関係人口創出のための仕組みづくり

●基本施策4 新たな産業の創出

- 1 和東の地域特性を活かした新産業プロジェクト創設
- 2 各産業の活性化を図る交流・連携の促進
- 3 新たな雇用の場の創出
- 4 空き家等を活用した民間事業者への支援



Roadside Station

～「道の駅」制度の概要～

(2-1) 背景・目的・基本コンセプト

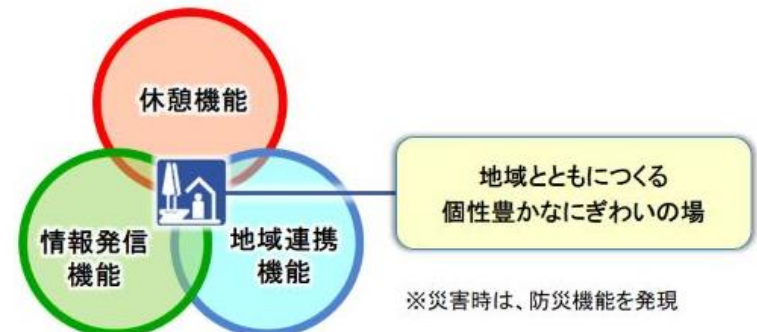
長距離ドライブが増え、女性や高齢者のドライバーが増加するなかで、道路交通の円滑な「ながれ」を支えるため、一般道路にも安心して自由に立ち寄れ、利用できる快適な休憩のための「たまり」空間が求められています。また、人々の価値観の多様化により、個性的でおもしろい空間が望まれており、これら休憩施設では、沿道地域の文化、歴史、名所、特産物などの情報を活用し多様で個性豊かなサービスを提供することが出来ます。さらに、これらの休憩施設が個性豊かなにぎわいのある空間となることにより、地域の核が形成され、活力ある地域づくりや道を介した地域連携が促進されるなどの効果も期待されます。こうしたことを背景として、道路利用者のための「休憩機能」、道路利用者や地域の方々のための「情報発信機能」、そして「道の駅」をきっかけに町と町とが手を結び活力ある地域づくりを共に行うための「地域の連携機能」、の3つの機能を併せ持つ休憩施設「道の駅」が誕生しました。

■ 目的

- ・道路利用者への安全で快適な道路交通環境の提供
- ・地域の振興や安全の確保に寄与

■ 基本コンセプト

休憩機能	・24時間、無料で利用できる駐車場・トイレ
情報発信機能	・道路情報、地域の観光情報、緊急医療情報などを提供
地域連携機能	・文化教養施設、観光レクリエーション施設などの地域振興施設



出典：国土交通省

Roadside Station ~ 「道の駅」 制度の概要 ~

(2-2) 登録方法・整備フロー

「道の駅」の登録要件、登録方法、整備フローについて以下に示します。

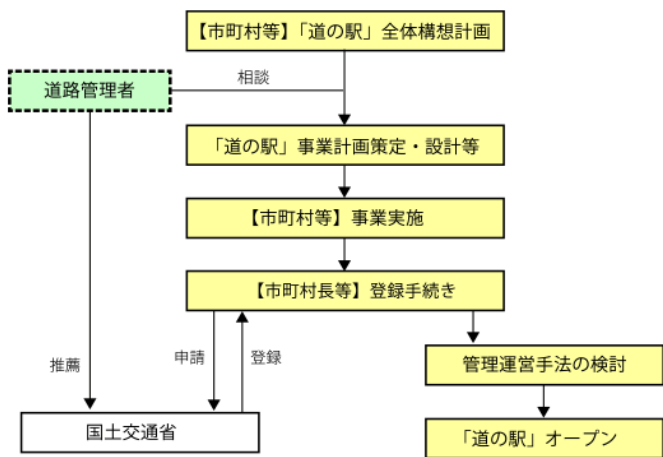
「道の駅」登録要件

- 休憩機能
 - 利用者が無料で24時間利用できる
 - 十分な容量を持った駐車場
 - 清潔なトイレ（原則、洋式）
 - 子育て応援施設（ベビーコーナー等）
- 情報発信機能
 - 道路及び地域に関する情報を提供
 - （道路情報、地域の観光情報、緊急医療情報等）
- 地域連携機能
 - 文化教養施設、観光レクリエーション施設などの地域振興施設
- その他
 - 施設及び施設間を結ぶ主要経路のバリアフリー化

「道の駅」の設置者・登録方法

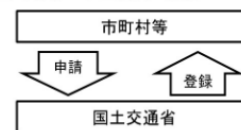
- ・「道の駅」は、市町村又はそれに代わり得る公的な団体が設置
 - 都道府県、地方公共団体が三分の一以上を出資する法人、市町村が推薦する公益法人 または市町村から土地・建物の貸与を受け、市町村と管理運営についての協定を締結する法人
- ・登録は、市町村長からの登録申請により、国土交通省で登録
- ・整備の方法は、道路管理者と市町村長等で整備する「一体型」と市町村で全て整備を行う「単独型」の2種類

「道の駅」整備フロー



※道路管理者の簡易パーキングの計画がある場合、道路管理者が整備する簡易パーキングと一体的に整備する場合がある。（一体型）

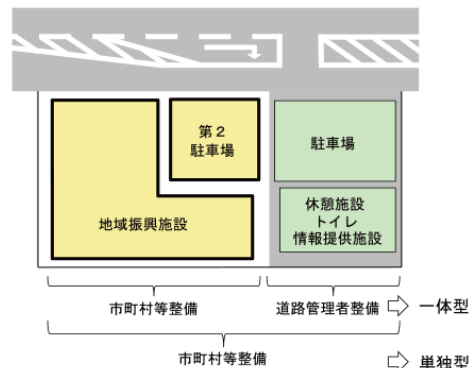
「道の駅」の登録手続き



「道の駅」の登録数

令和6年2月16日時点
「道の駅」総数1,213駅
 うち一体型：665駅(55%)
 うち単独型：548駅(45%)

整備主体と整備内容

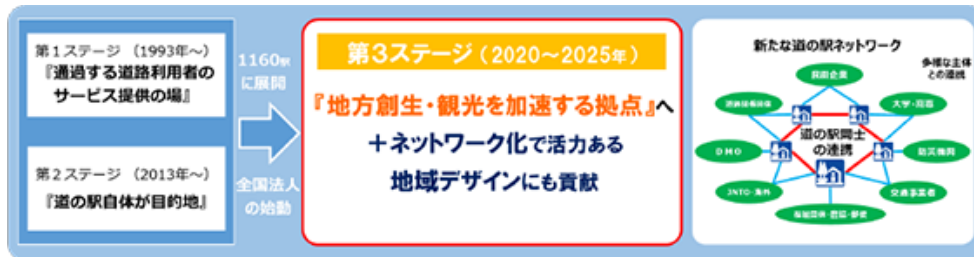


Roadside Station ~ 「道の駅」制度の概要 ~

(2-3) 「道の駅」第3ステージ概要

「道の駅」は、制度発足から『通過する道路利用者のサービス提供の場』として、全国各地に広がりました。各「道の駅」における自由な発想と地元の熱意の下で、観光や防災など更なる地方創生に向けた取り組みを、官民の力を合わせて加速します。

更に、「道の駅」同士や民間企業、道路関係団体等との繋がりを面的に広げることによって、元気に稼ぐ地域経営の拠点として力を高めるとともに、新たな魅力を持つ地域づくりに貢献します。



(参考) 地方創生の拠点となる「道の駅」の類型別機能イメージ



(※ 機能を兼ねるタイプも想定)

● 「2025年」に目指す3つの姿

1. 「道の駅」を世界ブランドへ

＜主な取組み＞

海外プロモーションの強化

外国人観光案内所の認定取得やキャッシュレスの導入

風景街道等と連携した観光周遊ルートの設定

観光MaaS（アプリで交通と観光施設を案内）

2. 新「防災道の駅」が全国の安心拠点に

＜主な取組み＞

広域的な防災拠点となる「防災道の駅」認定制度の導入と

重点支援

地域防災力の強化のためのBCP策定や防災訓練等の実施

3. あらゆる世代が活躍する舞台となる地域センターに

＜主な取組み＞

子育て応援施設の併設

自動運転サービスのターミナル

大学等との連携によるインターンシップや実習（商品開発等）

Roadside Station ～「道の駅」制度の概要～

(2-4) 和束町が目指す「道の駅」の姿

<地域テーマパーク型・道の駅について>

「茶源郷和束オープンエアミュージアム」の中心施設として、現在「茶源郷交流エリア」にある既存の施設を活かしつつ、官民連携した新たなフィールドパビリオンとして必要な施設を再整備します。地域に点在する茶畑の景観資産や茶産業の生産文化、歴史・文化、史跡名勝などを活かし、和束町全体を一つの茶室と見立てる「草案茶室構想（後述）」を第5次総合計画の「オープンエアミュージアム構想」の基本軸に据えて、その核となる中心施設として今回「茶源郷 Tea Park」を創設します。

「茶源郷 Tea Park」は、一から新たに施設を新設するのではなく、既存施設や、公共施設などの利用方法を見直すとともに民間企業の誘致により、茶源郷交流エリア全体について、国から「道の駅」として認可いただき、コストの削減を図るとともに、環境SDGs実現を目指し、サーキュラーエコノミーによるゴミを出さない新しい道の駅の姿を提案します。

<フィールドパビリオンとは>

兵庫県の齊藤知事が提案した大阪国際博覧会の開催にあたり各地域が産業・文化・歴史等を活かしパビリオンに見立て、地域の魅力を発信し誘客に繋げるというものです。



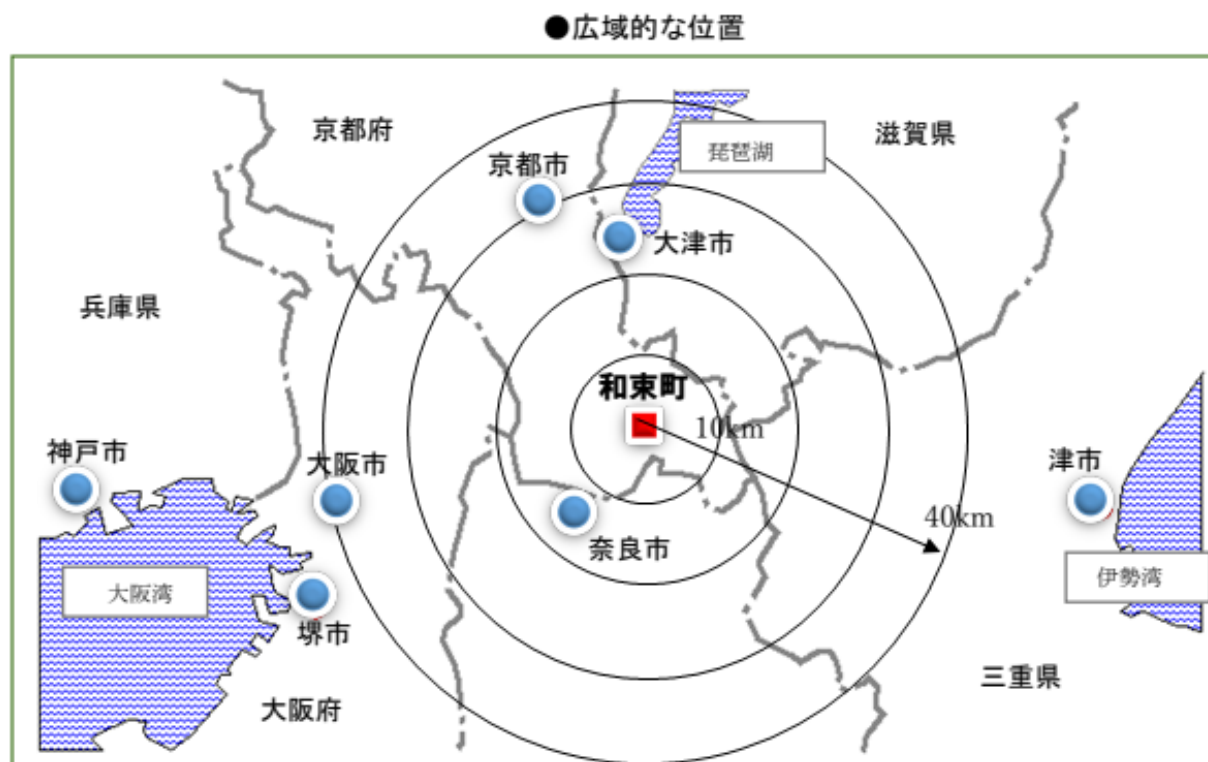
Current Situation

～「和東町」の現状～

(3-1) 位置

和東町は、京都府南部の相楽郡に属し、京都市から約 30km、奈良市から約 15km、大阪市から約 40km に位置しています。

和東町を含む相楽地域は、京都府の南端に位置していますが、近畿圏の広がりの中で捉えると中心に位置し、和東町の半径約 100km には、5つの政令指定都市（京都市、大阪市、堺市、神戸市、名古屋市）と4つの県庁所在地（奈良市、大津市、和歌山市、津市）を抱える大都市圏に近い中山間地域です。

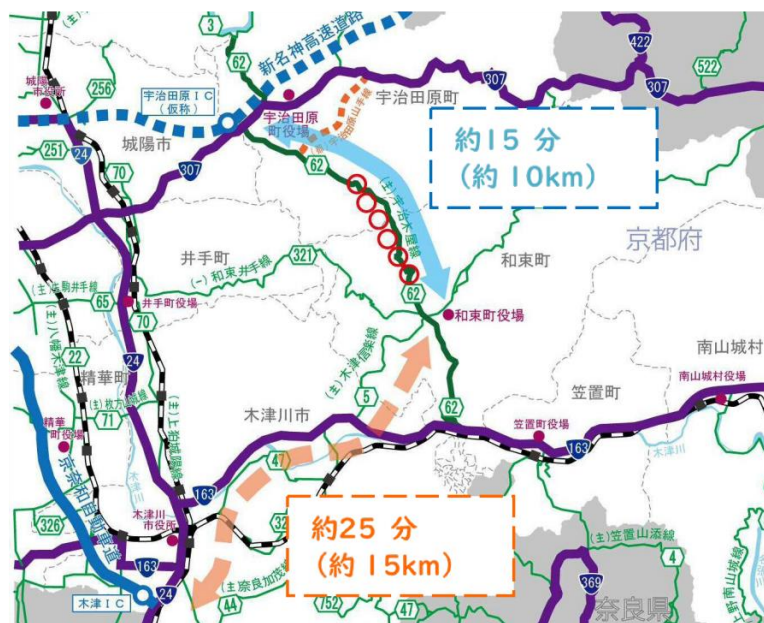


Current Situation ~「和東町」の現状~

(3-2) 鷲峰山トンネルの開通の影響

現在、本町から最も近い高速道路 I C は、京奈和自動車道の木津 I C（約 25 分）ですが、新名神高速道路が開通すると、宇治田原 I C が最も近い I C となります。新名神高速道路の開通予定に合わせ、平成 29 年度から、鷲峰山トンネルを含むバイパス道路の整備が始まっています。完成後は、和東町役場から宇治田原 I C まで約 15 分、京都市にも約 30 分で結ばれることとなります。新名神高速道路の開通時期と足並みを揃えて道路整備することにより、広域道路網の整備効果が広く地域に波及し、地域産業の振興や、お茶の文化を活かした観光客の呼び込み等が期待されています。

●主要地方道宇治木屋線（犬打峠）道路整備



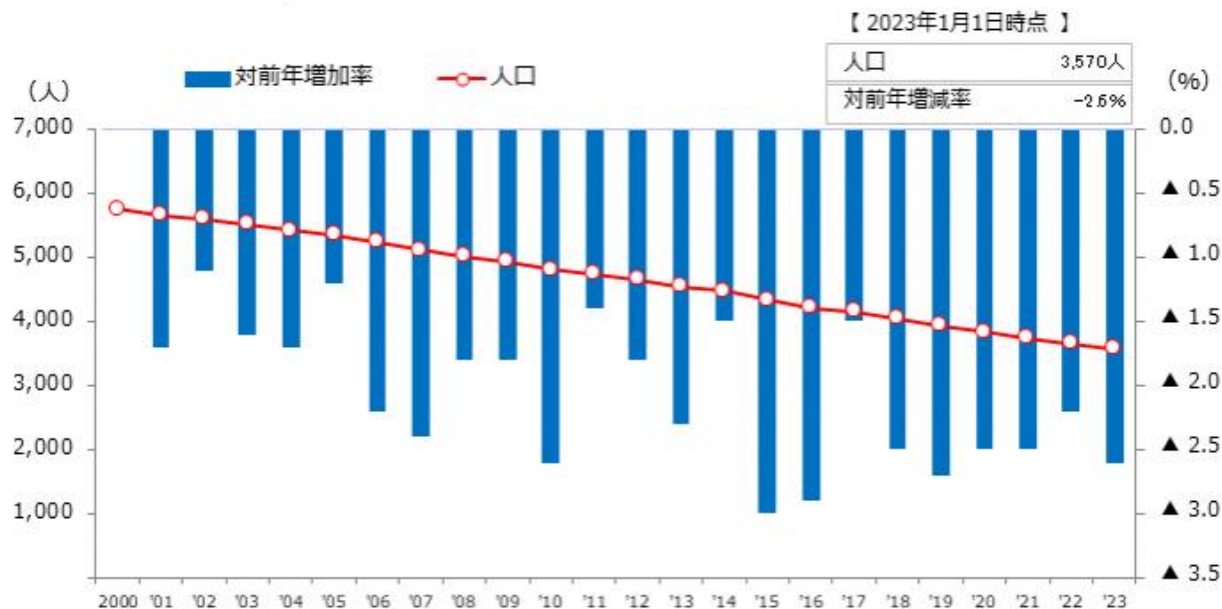
Current Situation

～「和束町」の現状～

(3-3) 人口動向

大正9年の国勢調査開始以降、総人口は昭和30年に、戦後のベビーブームと南山城水害の災害復旧のためピークを迎え7,614人でしたが、その後は農山村における全国的な傾向と同様に若年層の流出が目立ち、昭和45年頃までは減少傾向を辿っていました。その後、平衡を保っていましたが、平成2年から令和4年にかけては**漸減傾向**にあり、令和5年1月1日時点の人口は3,570人となっています。この数字は、前年からマイナス2.6%、94人の減少となっており、また10年前の2013年からはマイナス21.4%(年率換算マイナス2.4%)と、974人の減少となっています。

和束町の人口の推移 (住民基本台帳ベース、日本人住民)



※1月1日時点の外国人を除く日本人住民人口。

※市区町村の場合は2023年1月1日時点の市区町村境界。

Current Situation

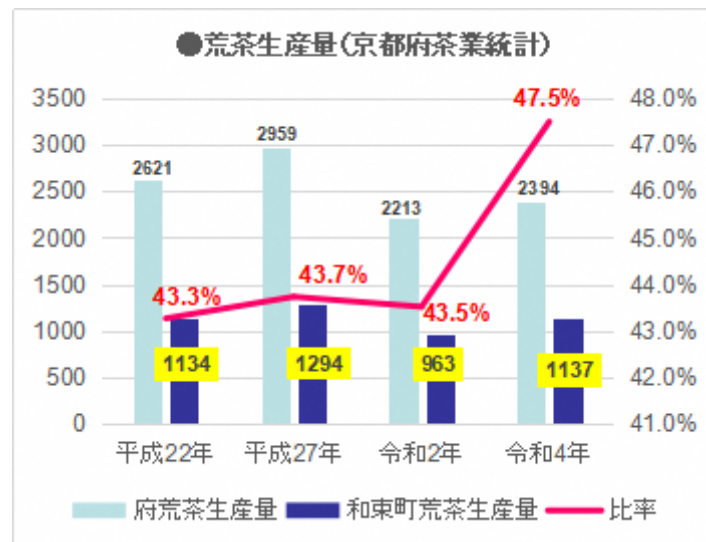
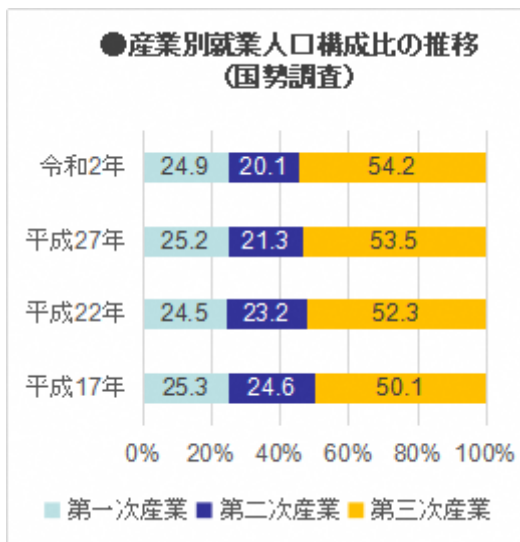
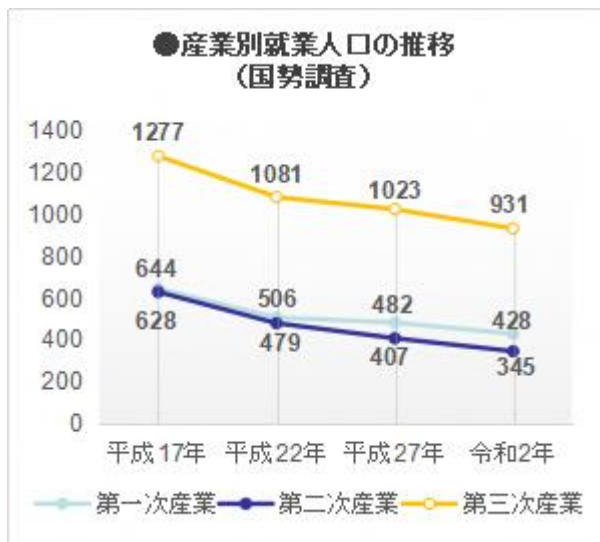
～「和束町」の現状～

(3-4) 産業の状況

総就業者数は、平成 17 年の 2,549 人から令和 2 年には 1,704 人と減少しています。

産業別就業人口でみると、**いずれの産業でも減少**し、産業別就業人口を構成比でみると、第一次産業は横ばい、第二次産業は減少、第三次産業が増加となっており、令和 2 年では第一次産業 24.9%、第二次産業 20.1%、第三次産業 54.2%となっています。

和束町の主産業である茶業についてしてみると、荒茶生産量は平成 22 年から令和 4 年までほぼ横ばいで推移し、令和 4 年には 1,137 トンとなっています。また、京都府全体の生産量に占める和束町の生産量比率も横ばいで推移し、平成 30 年には 47.5%となっており、**京都府で生産されている荒茶量の約 5 割を和束町で生産している**ことがわかります。



Current Situation ~「和束町」の現状~

(3-4) 産業の状況（観光について）

和束町および近隣地域の観光入込客数をみると、和束町の観光客増加の潜在的可能性は十分に高いと考えられます。

和束町第5次総合計画では、2025年に30万人の観光客数を目指しています。また、和束町のインバウンド客数は

2016年の63人からコロナ前の2019年には779人（日帰り客は含まず）と**4年で10倍以上**に成長しています。

昨今のインバウンド市況を鑑みると、**適切な情報発信**と**魅力あるコンテンツの提供**によって、**十分な集客力の向上**が見込めるものと考えます。

【観光入込客数（人）】	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
京都市	56,840,000	55,222,000	53,623,000	52,750,000	53,515,000	—	21,020,000	43,612,000
宇治市	5,598,011	5,587,147	5,509,815	5,398,510	5,598,388	2,425,077	2,341,271	4,049,502
木津川市	998,310	987,024	1,005,158	965,859	916,469	528,831	549,406	641,207
笠置町	251,124	261,498	222,558	229,975	205,960	156,465	134,010	185,275
和束町	81,783	94,463	152,984	178,543	170,429	112,895	132,202	166,807
精華町	645,930	626,260	643,162	694,889	718,204	587,857	447,170	565,422
南山城村	301,783	262,323	868,155	1,006,820	919,254	667,149	626,666	638,994
奈良市	14,976,000	15,543,000	16,314,000	17,025,000	17,411,000	7,242,000	7,341,000	9,294,000
【観光消費額（千円）】	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
京都市	970,438,000	1,086,159,000	1,126,787,000	1,308,226,000	1,236,744,000	—	445,700,000	1,017,900,000
宇治市	10,967,393	10,790,197	13,142,852	13,371,243	13,193,485	5,327,997	4,882,707	8,064,618
木津川市	2,213,696	2,255,234	2,281,425	2,121,326	2,168,820	2,022,599	2,114,617	2,167,845
笠置町	835,641	855,416	648,435	647,586	650,741	544,863	635,475	688,253
和束町	111,076	152,238	783,169	677,298	495,716	337,639	366,465	415,633
精華町	245,810	230,963	196,658	225,957	234,599	145,090	146,120	261,804
南山城村	1,598,875	1,579,047	1,835,487	2,078,845	852,677	1,856,254	2,072,409	1,812,786
奈良市	99,460,000	103,590,000	112,860,000	120,800,000	114,720,000	43,220,000	42,800,000	59,830,000
【観光客1人当り消費額（円）】	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
京都市	17,073	19,669	21,013	24,800	23,110	—	21,204	23,340
宇治市	1,959	1,931	2,385	2,477	2,357	2,197	2,085	1,992
木津川市	2,217	2,285	2,270	2,196	2,366	3,825	3,849	3,381
笠置町	3,328	3,271	2,914	2,816	3,160	3,482	4,742	3,715
和束町	1,358	1,612	5,119	3,793	2,909	2,991	2,772	2,492
精華町	381	369	306	325	327	247	327	463
南山城村	5,298	6,019	2,114	2,065	928	2,782	3,307	2,837
奈良市	6,641	6,665	6,918	7,095	6,589	5,968	5,830	6,437

資料：京都府観光入込客調査報告書、京都市産業観光局、奈良市観光入込客数調査報告書を元に作成

Current Situation ~「和束町」の現状~

(3-5) 近隣の状況

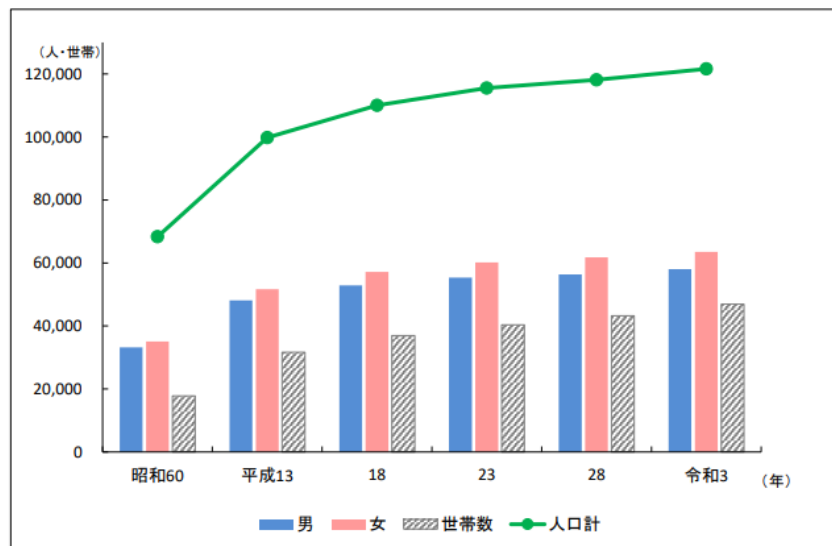
◆人口増加傾向の近隣地域

和束町は人口減少傾向にあるもの、近隣地域は平成以降、大阪・京都のベッドタウンとして発展してきました。相楽郡の人口は、木津川市、精華町を中心に**上昇傾向**にあります。また、精華町を拠点とした、関西文化学術研究都市として国立国会図書館、大手企業の研究施設（NTT、島津製作所、京セラ、サントリー等）及びスタートアップ企業の誘致（約140社以上）で国際色豊かな発展を遂げています。関西国際空港との直通バスも運行され、精華町の京都府下の平均所得ランキングは**府内1位**で**京都市内よりも高い水準**にあります。

奈良市においても、2023年11月現在、人口約35万人（世帯数約16.7万世帯）となっており、和束町の足元商圈はかなり高いポテンシャルを有しています。近隣に存在する大型ショッピングセンターの相次ぐ出店や、笠置町のキャンプ場の盛り上がりは、これらの**足元商圈の高い成長可能性**を実証していると考えます。

各年10月1日現在 (単位:人・世帯)

		昭和60年	平成13年	18年	23年	28年	令和3	
木津川市	人口	男	19,348	28,620	31,262	33,939	35,318	37,724
		女	20,413	30,750	33,874	36,757	38,600	41,019
	世帯	39,761	59,370	65,136	70,696	73,918	78,743	
笠置町	人口	男	1,145	942	840	745	620	520
		女	1,284	1,070	978	845	699	573
	世帯	2,429	2,012	1,818	1,590	1,319	1,093	
和束町	人口	男	3,107	2,558	2,291	2,074	1,821	1,582
		女	3,226	2,805	2,566	2,321	2,057	1,823
	世帯	6,333	5,363	4,857	4,395	3,878	3,405	
精華町	人口	男	1,549	1,575	1,554	1,509	1,429	1,376
		女	7,827	14,252	16,857	17,161	17,368	17,125
	世帯	8,268	15,065	18,010	18,708	19,051	18,894	
南山城村	人口	男	16,095	29,317	34,867	35,869	36,419	36,019
		女	4,213	9,269	11,528	12,251	12,934	13,660
	世帯	1,786	1,785	1,612	1,413	1,241	1,111	
計	総人口	男	1,915	1,977	1,759	1,569	1,372	1,232
		女	3,701	3,762	3,371	2,982	2,613	2,343
	総世帯	942	1,169	1,122	1,114	1,079	1,028	
計	総人口	男	33,213	48,157	52,862	55,332	56,368	58,062
		女	35,106	51,667	57,187	60,200	61,779	63,541
	総世帯	68,319	99,824	110,049	115,532	118,147	121,603	
		総世帯	17,783	31,682	36,926	40,372	43,252	46,950



Current Situation ~「和束町」の現状~

(3-5) 近隣の状況 ~ 道の駅「お茶の京都 みやみやましろ村」~

- ・ 南山城村が設置した京都府内で 18 番目に認定された道の駅（平成 29（2017）年 4 月 15 日開業）
- ・ 平成 27（2015）年度には重点道の駅に選定されており、「村で暮らし続けるための仕掛け作り」として、特産品であるお茶を活用した商品開発などを行い、地域内循環型産業システムの実現を目指しています。
- ・ 地元のお茶や農産物だけでなく、メディアでもたびたび取り上げられる濃厚な抹茶ソフトクリームやむらちやプリンが人気で、近畿・東海圏から大勢の人が訪れ、開業から約 5 年で来場者 200 万人を実現しています。
- ・ 現在、南山城村が出資した株式会社南山城が指定管理者として運営しています。（指定管理期間:令和 2～7 年度）

●施設構成

- ・ 駐車台数: (普通車) 83 台、(身障者専用) 2 台、(大型車) 15 台
- ・ トイレ (24 時間利用可能)
- ・ のもん市場 (野菜、お土産の販売)
- ・ 村民百貨店 (生活用品の販売)
- ・ つちのうぶ (食堂)
- ・ 村茶屋 (ファーストフードの販売)

《南山城村産のお茶を活用した商品一例》



むらちやプリン(抹茶)

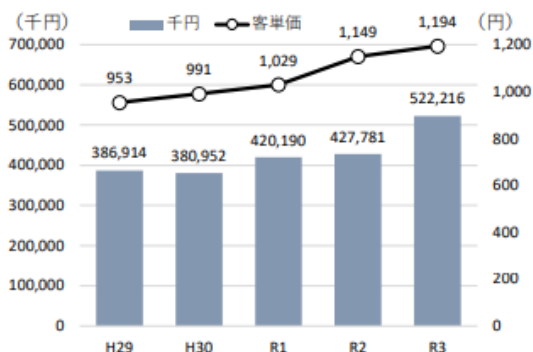
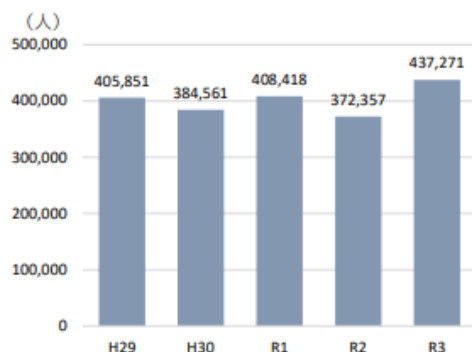


むらちやどらやき(抹茶)



村抹茶ソフトクリーム

《レジ通過者数（左）・売上高及び客単価（右）の推移》

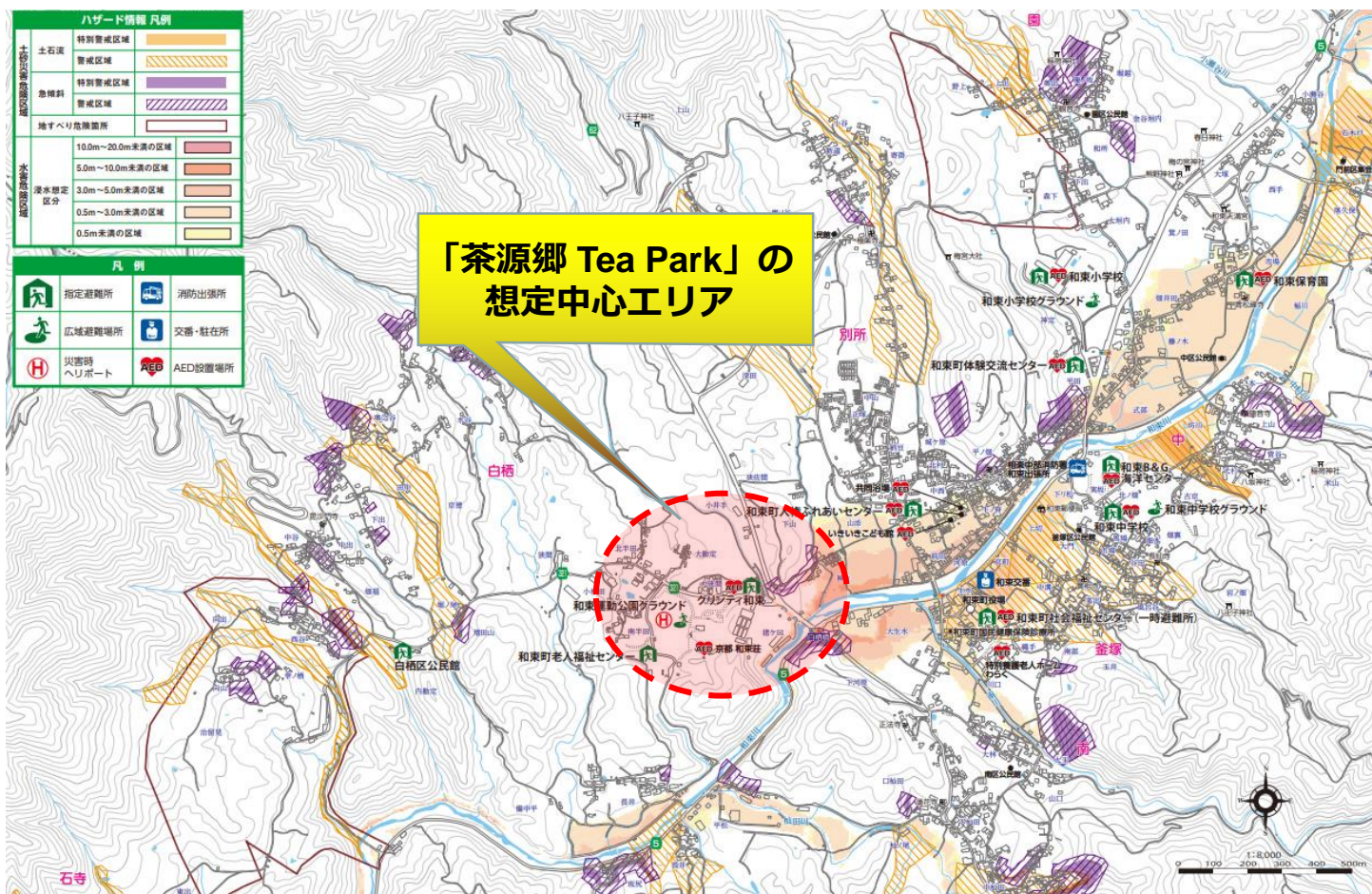


出典：南山城村観光振興計画（改訂版）

Current Situation ~「和東町」の現状~

(3-6) 周辺の避難施設／ハザードマップの状況

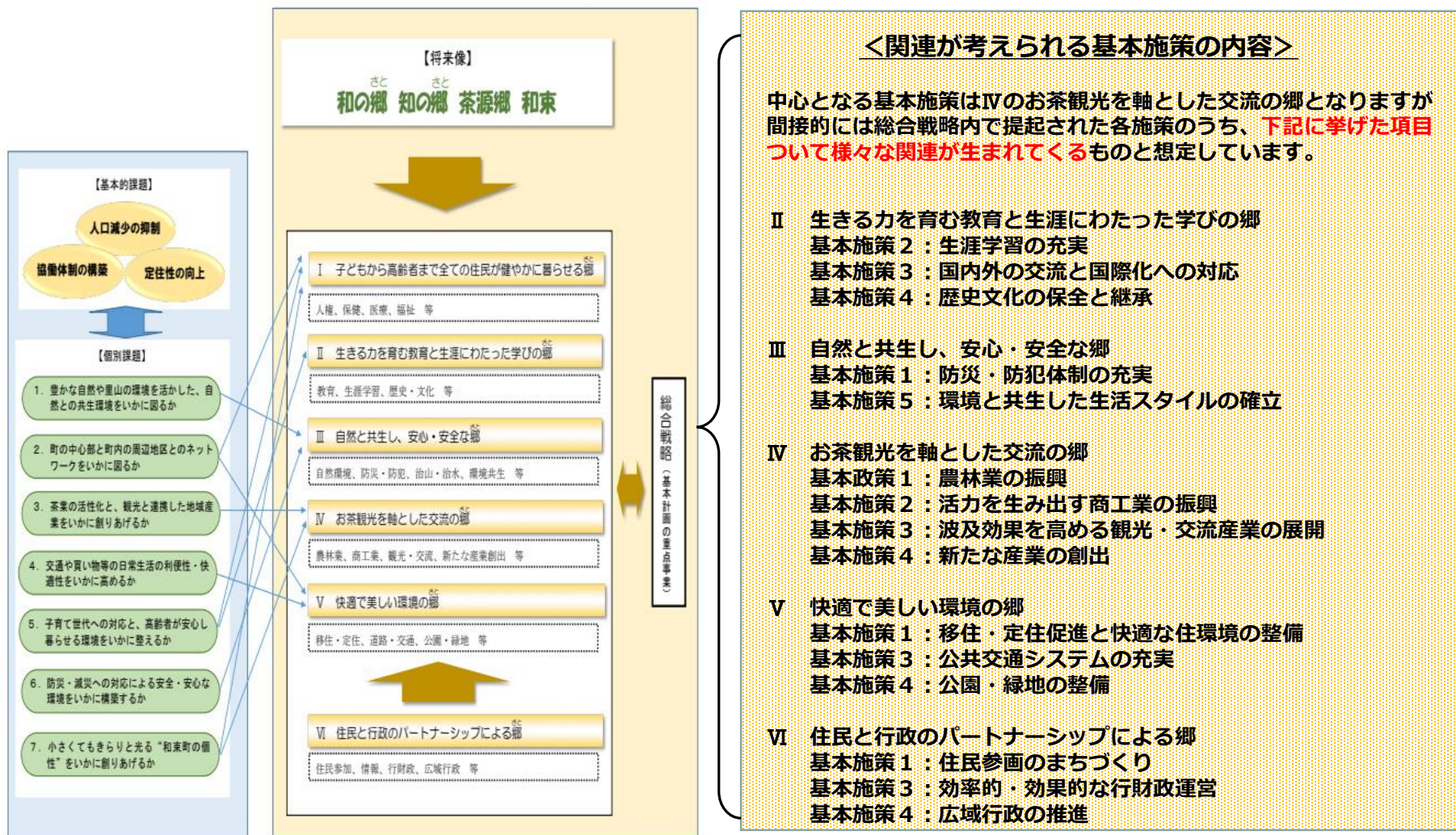
和東町周辺で現在設定されている避難施設及びハザードマップの状況について以下に示します。ハザードマップにおいて、今回計画している『茶源郷 Tea Park』設置想定エリアは**低リスクエリア**であり、町民の避難場所として適していると考えられます。また、**災害発生時の地域孤立リスク**に対応するため、ヘリポートやEV充電施設などの設置についても検討しています。



Assignment

(4-1) 課題の整理 ～ 本構想と関連のある基本施策について ～

「茶源郷 Tea Park」整備にあたり、和束町の上位・関連計画や市の現状、課題の要点を以下に示します。



Assignment

(4-1) 課題の整理 ～ 和束町の強みと弱みについて ～

【町の強みと弱み】第5次総合計画の中で示された和束町の強みと弱みについて以下に示します。

『強み』

- 近畿圏の中心に位置する、自然環境豊かな地域である
 - ・ 半径 100km 圏域に 5 つの政令指定都市を有し、かつ町の大半が自然環境と茶畑に囲われたまさに“茶源郷”の環境を有している。
- 宇治茶の里として質・量ともにトップクラスの茶産地である
 - ・ 京都府の荒茶の生産量の約 5 割を占めている。
 - ・ 生産額は概ね横ばいで約 30 億となっている。
- 子育て支援が手厚い
 - ・ 各種の子育て支援策が非常に充実している。
- 観光が活力を増している
 - ・ 教育観光やインバウンドの観光客を受け入れ、入込客数は約 18 万人（平成 30 年）で、高い伸び率を示している。（但し、コロナ禍で大きなダメージ有り）
- 人材が豊富である
 - ・ 転入者等を含め多彩な人材が様々な活動を展開している。
- （仮称）犬打峠トンネル開通により、交通条件は大幅に良化される
 - ・ 交通条件の改善により、茶の販売や観光の誘客に寄与する。
 - ・ 周辺都市との時間距離縮小により、住民の暮らしの安全や雇用の場の拡大が期待される。

『弱み』

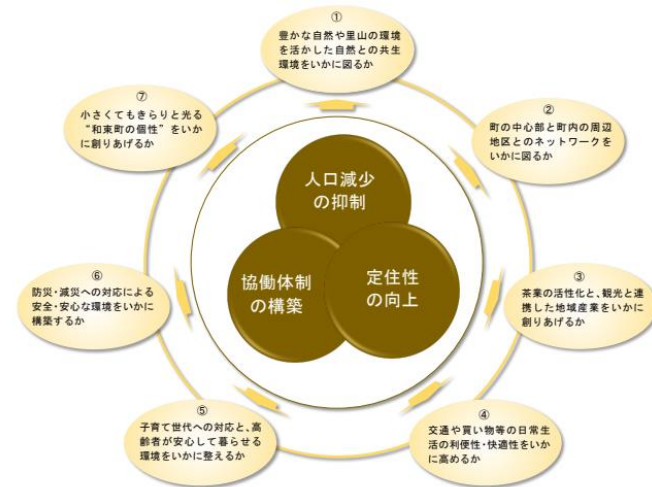
- 少子高齢化が着実に進行している
 - ・ 特に合計特殊出生率（平成 30 年 0.94）が低い。
- 町域も広く中山間地も多いことから町内移動が厳しい
 - ・ 湯船や木屋地区は町中心部から遠く、信楽町や木津川市との繋がりが強い。また、高標高の斜面地に形成されている集落も多く、生活交通や買い物等の利便性の確保が難しい地区が多い。
- 基幹産業の後継者問題がでている
 - ・ 後継者問題と合わせ、耕作放棄地もかなりみられる。
- 財政基盤が脆弱化しつつある
 - ・ 人口減少や産業力低下に加え、福祉を含めた財政需要は拡大化しており、メリハリのある財政投資が求められる。
- 地域内連携が十分には形成されていない
 - ・ 多彩な人材や各種の団体活動があるが、連携が不十分である。
- 和束町のアピール力が希薄である
 - ・ 茶業界では知名度はあるが、一般には和束町に対する認識は希薄である。
- 交通条件の良化は流出要因にもなりえる
 - ・ （仮称）犬打峠トンネルは、町から流出を促す要因にもなりかねない。

■ 3つの基本的課題

- ・ 人口減少の抑制
- ・ 定住性の向上
- ・ 協働体制の構築

■ 7つの個別的課題

- ① 豊かな自然や里山の環境を活かした自然との共生環境をいかに図るか
- ② 町の中心部と町内の周辺地区とのネットワークをいかに図るか
- ③ 茶業の活性化と、観光と連携した地域産業をいかに創りあげるか
- ④ 交通や買い物等の日常生活の利便性・快適性をいかに高めるか
- ⑤ 子育て世代への対応と、高齢者が安心して暮らせる環境をいかに整えるか
- ⑥ 防災・減災への対応による安全・安心な環境をいかに構築するか
- ⑦ 小さくてもきらりと光る“和束町の個性”をいかに創りあげるか



Assignment

(4-1) 課題の整理

「茶源郷Tea Park」の整備に向け、和束町に住む住民の方々へのヒアリング調査を目的としたタウンミーティングを実施しました。調査結果から、産業・観光・暮らしの要素において、次の内容が課題となっており、今回の「茶源郷TeaPark」が実現する機能により、これらの課題解決を目指します。

要素	地域の課題	住民・関係者ニーズ
産業	<ul style="list-style-type: none">● 農業従事者の不足により、遊休農地の増加傾向がみられる。● 農業の担い手の高齢化、後継者不足が顕在化している。● 和束茶のブランド力を高めることで、和束茶独自の付加価値向上を図る必要がある。	<ul style="list-style-type: none">● 農産物直売所や地元食材を生かしたカフェやレストラン、テイクアウト施設などがあると嬉しい。● お茶農家さんからは、お茶をはじめとした農産物の販売拡大が見込めれば嬉しいとの声。売れ行きの良い直売所は大歓迎。● 町に長時間滞留して、お金を使っていただけのような飲食店や宿泊施設があるといい。
観光	<ul style="list-style-type: none">● まちの景観（人と自然の融合）を最大限活かした和束町らしい観光施設が必要。● 観光情報の発信や広域連携などがもっと必要。● SNSやWEBなどのデジタル対応も今後重要となってくるので力を入れたい。	<ul style="list-style-type: none">● 観光案内や地図などまちの全体像が分かるものが必要。魅力のある場所はあるが、初めて来た人には何があるかよくわからない。● シンボルとなる中心施設に加えて、その施設から各観光拠点へのわかりやすい動線案内が必要。
暮らし	<ul style="list-style-type: none">● 町民による自発的な活動の場の設置と定期的な活動を促進するための支援が必要。● 人口減少に伴い、少子化による教育環境の変化に対する将来へ向けての不安や懸念がある。	<ul style="list-style-type: none">● 子供や女性、お年寄りが安全に立ち寄れて楽しい時間を過ごせる施設が欲しい。● 親子や地域コミュニティで共に学びつながることができる体験イベントなどの開催● 避難所や災害時の拠点として活用できる施設デザイン

Assignment

(4-1) 課題の整理

本事業の目的である「**中心地域の活性化**」に向けて、タウンミーティングの中で住民の皆様から頂いた和東町中心地域の活性化にかかる課題について以下に記載します。

◆町の中心としての風景がみられない。

・本町の中心地域は、特に人口や建物が集積しているわけではないため、中心地域としての風景が醸し出されていません。初めてきた人にまずわかるような町の顔としてのイメージを目に見える形で表現していくことで、和東の魅力の訴求力を高めていく必要があります。

◆町の中心として求心的な「場」がない。

・本町には、町の中心として住民が意識することのできる場がありません。活性化センター周辺は、各施設や販売所・カフェなどが立地していることから、面的に機能の条件は揃っているが、多世代がコミュニケーションを図ることのできる場も存在していません。地域を活性化させるためには、関係者のみならず、地域住民を交えて地域ぐるみで考え、具現化していくことが必要であり、そのための知識共有、活用の場が必要であると考えます。

◆中心地域の活性は「子ども・若者・女性の自己実現ができる環境づくり」の具現化手法として検討する必要がある。

・中心地域を活性化させていくことは、「子ども・若者・女性の自己実現ができる環境づくり」を目に見える形にしていくことが、その目的のひとつであると考えます。少子化に伴い、教育に対する住民の懸念が高まってきており、中心地域の活性化は、単に施設をつくることでなく、教育機会の拡充という目的を達成するための問題・課題を解決する手法として考えていく必要があります。

◆都市部とは違う中心地域活性化の考え方を構築する必要がある。

・都市部における中心市街地に望まれることは、「商業施設や公共機関等が充実した街の顔であること」「日常の買い物に便利であること」「高齢者が安心して利用できること」「福祉・コミュニティ施設が充実していること」などが挙げられます。しかしながら、和東町においては、中心地域の規模が小さく、また、都市部のように大きな市場を有していないためできることが限られています。都市部とは違う考えに立ちながら、和東町独自の施策や提供できるサービス等の検討が必要だと考えます。

◆中心地域の活性化は、まちの活性化と同義であると考えていく必要がある。

・周辺地域の開発が進み、隣接市町村との境界周辺の住民は、もはや隣の街へ出向いた方が効率的で便利であるという意見もあります。町内での消費や活動を促すことができれば、町全体の底上げにも寄与する可能性が高いと考えられます。そのための施策を検討する必要があり、中心地域の活性化は、町全体の課題解決を進めるものとして同義に考えていく必要があります。

Assignment

(4-2) 期待できる効果

本基本構想に基づいた「茶源郷 Tea Park」がまちに整備されることにより、次のような効果が期待できると考えられます。

項目	期待できる効果
交流人口の拡大	町外、県外からの来訪者が増えることで、町民との交流機会を創出・拡大することができます。
地域の魅力発信	遠方や外国からの来訪者を獲得し、道の駅を拠点として地域の魅力を発信できます。リアルな現地からの情報発信に加え、ネットやSNSを活用したデジタル発信力も向上させていきます。
観光振興	町内及び広域連携に向けた観光情報の発信によって、観光振興が期待できます。
移住促進支援	町外からの来訪者に対して、和束町の魅力をPRすることにより、移住促進へつなげることが出来ます。
農業従事者確保	道の駅を拠点とした各種体験機会や学習機会を通じて、移住や農業に興味を持っていただく方を増やすことができます。
農産物のブランド化	直売所を活性化することで、農産物の直販力を高めつつ、和束茶のファン層を拡大することによって和束茶のブランド力を向上させることができます。
地産地消&地産外商	生産者と消費者をつなげるハブとしての役割が期待できます。（体験会やマッチングイベントなどの開催等）
サイクル拠点の連携	サイクルロードの目的地、重要拠点としての整備を進めることで、自転車ファンを集めることができます。
生涯学習機会の増加	道の駅で様々な教育イベントや研修プログラムを定期運用することで、様々な客層に対してのアプローチ力と定期来場ニーズの促進を図ることができます。

Philosophy&Concept

(5-1) 基本理念とコンセプト ①まちのミッション/ビジョン

◆「茶源郷 和束」とは（町の将来像）

「住民の一人一人が自らの自己実現によって、地域の役割を果たしながら生きがいを持ち、活発に活動しているまち」
「日本茶の生産文化を発信しつづけ、常におもてなしの心を体感できるまち」

◆「和束茶」とは（6次産業化によって宇治茶とは異なる魅力を発信）

- ①多様なテロワールの上に300件の農家の想いと生産技術により生まれた**クリマの集積**」
- ②宇治茶の「里茶」「親茶」と呼ばれる宇治茶のベースになるお茶
- ③京都産100%（和束産100%）で仕立てた**シングルオリジンティ**

●MISSION

現在でも持続・保持している**優れた自然美**と産業・生活・コミュニティが残る**地域の責任**として世界中の子どもたちや、ファミリー、自然社会に親しみ、学ぼうとする**人々のために門戸を開け**、自然景観や体験、お茶の楽しみや効能を伝えることでアジアを代表する「**お茶の産地**」としての責任を**地域住民の自己実現**によって果たします。

●VISION

- ・**茶畑景観の素晴らしさ**を世界中の人々に親しんでいただきます。
- ・お茶を軸とした「**飲む**」・「**食べる**」・「**見る**」・「**体験する**」といったコンテンツを広く提供します。
- ・生産者との交流を軸に、地域の価値や魅力を体験し、**大和文化のゲートウェイ**としての役割を果たします。
- ・上記を通じて世界の人々と価値多様性の相互理解を提供することで、**世界平和**に向けた取組みの一躍を担います。

これらを通じて

「**自然の恵みを未来に継承しつつ、21世紀を担う新産業を創造し、人々が笑顔で住まう町**」を実現します。

Philosophy&Concept

(5-2) 基本理念とコンセプト ②まちのブランディングアイデア

ブランディングアイデアとは、和東町に接した人々に感じていただく付加価値・好感のことです。
これから生み出す「茶源郷 Tea Park」が人の心にどのような感情・感覚を生み出すかをここで表現しました。
令和5年度秋に実施したビジネスカレッジを通じて、住民の皆様と紡いたブランディングアイデアを示します。

「茶源郷 Tea Park」が、豊かな「ごえん」をつなぎます

《縁》 = 生産者と消費者・素材と食卓・人と地域・地域と地域・日本と海外・人と自然
《円》 = お金・丸・円満
《援》 = 応援・サポート・援助
《宴》 = コミュニティー・仲間
《園》 = 農園・楽園・学校・サークル
《苑》 = 茶園・庭園・集団・丸い囲み
《平和》 バランス/ 調和/ 循環/ 天地の巡り/ 慈愛/ 和み/ 和らげる/ ほぐす/ 氣/ 心と身体

和を束ねる町 = 「和東町」

「茶源郷TeaPark」は、様々な「ごえん」を紡ぎ、人々の心に和みを届ける場所

お茶を介して深まる「茶縁」のチカラが集まる場 (お茶がとりもつ人々の縁)が宿る秘密の場所
禅語「喫茶去」 = ～まあ、お茶でも飲みなさい～

→ 慌ただしい日々の中、ゆったりとお茶を愉しむ時間を持つことで自身に向き合い、ココロが調いリセットされ、平和な状態に還る。
ゆとりが生まれ日々の暮らしが豊かになるという教え。茶の湯でも使用される言葉。

— 禅語「縁起」縁よりて起こる ※縁起」の法則の下にあるこの世界のことを「世間」という。

Philosophy&Concept

(5-3) 基本理念とコンセプト ③コンセプトの具体的指針

「茶源郷・和束」という町のコンセプトを補強&強化し、「誘客力」を高めるための仕組みづくりを行うため、以下に示すような具体的指針を打ち出しました。

- ①町全体を「自然の茶室」と見立てて
「茶源郷」という里の中にある、町と人＝**草案茶室**というポジションを作ります。
- ②「京都の中の和束」という位置づけも実現するため、京都の通常町名に使われる「入ル」という住所を付与することで「京都の茶文化の源泉」を示します。
- ③千利休の茶室の基本的な考え方である、「草案茶室」というコンセプトを援用する。
- ④「**茶源郷 入ル 草案茶室 和束**」という「新しい住所」を世の中に表現することで「誘客する。足を運んでいただく。」というストーリーにつなげていきます。
- ⑤町全体を茶室と見立てて、従来の取り組みと和束町の人的資源、景観、歴史、文化を「お茶と茶文化」を中心に再構築し、誘客力の強化を実現します。

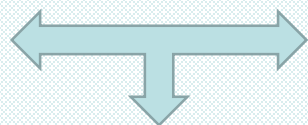


Philosophy&Concept

(5-4) 基本理念とコンセプト ④ポジショニングとコンセプト

- ・観光分野における和束町のポジションは、京都や奈良と同じく、「**自然・歴史・文化融合型**」のポジションを取っていると考えられます。
- ・また、日本を代表するお茶ブランドの宇治に属し、京都府山城地域（お茶の京都エリア）に属する「**日本茶文化の源泉のひとつ**」というユニークなポジションも有しています。
- ・加えて、宇治茶の主産地である和束町は、日本における京都のポジション・ブランドを活用しながら、京都に対して、新しいポジションを取りうる**高い潜在価値**を有している場所と捉えることができます

京都 = 屋内茶文化（茶道）



和束 = 生産文化（草庵茶室）

「茶源郷 入ル 草庵茶室 和束」



- ・日本一美しい「生業の茶畑」
- ・800年間続く茶生産業
- ・樹齢1300年の八坂の大杉
- ・多様な動植物
- ・万葉集の舞台



Philosophy&Concept

(5-5) 基本理念とコンセプト ⑤まとめ

これまでの検討を踏まえた「茶源郷 Tea Park」の基本理念及びコンセプトを以下に示します。

● MISSION

現在でも持続・保持している優れた自然美と産業・生活・コミュニティが残る地域の責任として世界中の子どもたちや、ファミリー、自然社会に親しみ、学ぼうとする人々のために門戸を開け、自然景観や体験、お茶の楽しみや効能を伝えることで、アジアを代表する「お茶の産地」としての責任を地域住民の自己実現によって果たします。

● VISION

- ・茶畑景観の素晴らしさを世界中の人々に親しんでいただきます。
- ・お茶を軸とした「飲む」・「食べる」・「見る」・「体験する」といったコンテンツを広く提供します。
- ・生産者との交流を軸に、地域の価値や魅力を体験し、大和文化のゲートウェイとしての役割を果たします。
- ・上記を通じて世界の人々と価値多様性の相互理解を提供することで、世界平和に向けた取組みの一躍を担います。

「自然の恵みを未来に継承しつつ、21世紀を担う新産業を創造し、人々が笑顔で住まう町の中心施設」

「茶源郷 Tea Park」コンセプト

「茶源郷 入ル 草庵茶室 和束」

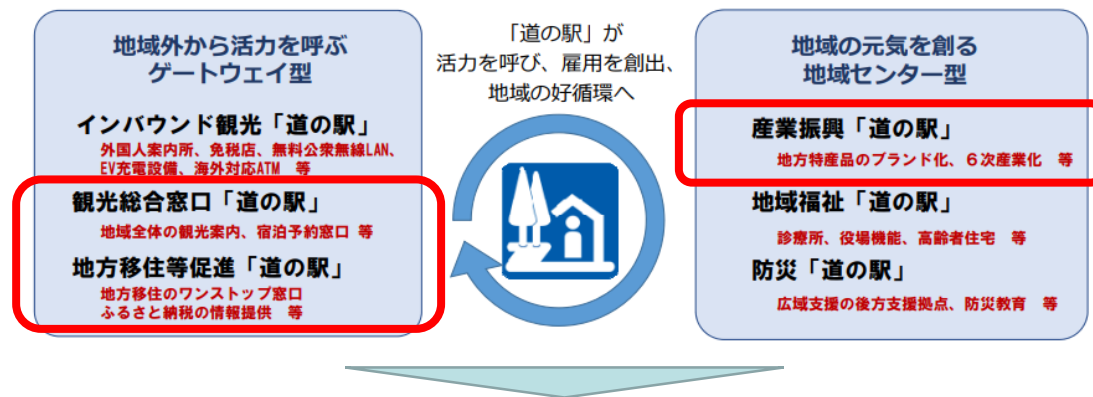
”「茶源郷 Tea Park」が、豊かな「ごえん」をつなぎます”

～「茶源郷 Tea Park」は、様々な「ごえん」を紡ぎ、人々の心に和みを届ける場所～

Function Standard

(6-1) 「茶源郷 Tea Park」が目指す道の駅機能

「茶源郷 Tea Park」は、観光総合窓口と地方移住等促進を合わせた**ゲートウェイ機能**を有しつつ、産業振興の拠点として地域活性を促進する**地域センターとしての機能**を実装することとします。



地域外から活力を呼ぶゲートウェイ型		地域の元気を創る地域センター型	
インバウンド観光	<ul style="list-style-type: none"> 多言語に対応した案内など、外国人観光案内所認定の取得 地酒やお菓子など、地域の特産品を免税で購入できる免税店の併設 外国発行クレジットカードの利用可能ATMの設置 無料公衆無線LAN環境の提供 電気自動車による周遊観光を可能とするEV充電設備の設置 等 	産業振興	<ul style="list-style-type: none"> 地域の特産品によるオリジナル商品開発、ブランド化 直接的な雇用に加え、地元生産者からの調達による雇用の創出 地元農林水産物を活用した6次産業化のための加工施設や、直売所の設置 等
観光総合窓口	<ul style="list-style-type: none"> 観光協会等と連携した地域全体の観光案内機能 宿泊予約やツアー手配のための旅行業の登録 単なる物見遊山にとどまらない、史実・文化など知的好奇心を刺激する機会の提供 地域資源を活かした体験・交流機会の提供 等 	地域福祉	<ul style="list-style-type: none"> 診療所、役場機能など、住民サービスのワンストップ提供 高齢者への宅配サービス 健康、バリアフリーに配慮した高齢者向け住宅の併設 地域公共交通ネットワークの乗継拠点 SS(サービスステーション)過疎地における石油製品の供給拠点機能 等
地方移住等促進	<ul style="list-style-type: none"> 空き家情報や就労情報など、地方移住に必要な情報のワンストップ提供 若者に地域の魅力を体験する機会の提供 運営スタッフの公募等による雇用機会の創出 ふるさと納税に関する情報提供 等 	防災	<ul style="list-style-type: none"> 自衛隊、警察、消防等の広域支援部隊が参集する後方支援拠点機能 地場産品の取扱や燃料保有、非常電源装置等によるバックアップ機能 平時からの防災啓発教育のため、既往災害等の情報発信 等



Function Standard

(6-2) 導入機能の基本方針

和東町基本計画や、住民・関係者等のニーズ・意見等を踏まえ、「茶源郷 Tea Park」で実現する基本機能を以下に示します。

<「茶源郷 Tea Park」との関連が考えられる 第5次総合計画の基本施策の内容>

II 生きる力を育む教育と生涯にわたった学びの郷

- 基本施策2：生涯学習の充実
- 基本施策3：国内外の交流と国際化への対応
- 基本施策4：歴史文化の保全と継承

III 自然と共生し、安心・安全な郷

- 基本施策1：防災・防犯体制の充実
- 基本施策5：環境と共生した生活スタイルの確立

IV お茶観光を軸とした交流の郷

- 基本施策2：活力を生み出す商工業の振興
- 基本施策3：波及効果を高める観光・交流産業の展開
- 基本施策4：新たな産業の創出

V 快適で美しい環境の郷

- 基本施策1：移住・定住促進と快適な住環境の整備
- 基本施策3：公共交通システムの充実
- 基本施策4：公園・緑地の整備

VI 住民と行政のパートナーシップによる郷

- 基本施策1：住民参画のまちづくり
- 基本施策3：効率的・効果的な行財政運営
- 基本施策4：広域行政の推進

「茶源郷TeaPark」で実現する基本機能

①道の駅としての基本機能

a-1	休憩機能	道路利用者及び地域住民が気軽に立ち寄ることができて、快適に休憩できるスペースの整備
a-2	情報発信機能	道路利用者の安全確保と地域の魅力を発信し、観光周遊の起点となる情報発信基地の整備
a-3	地域連携機能	和東町らしい文化教養施設、観光レクリエーション施設などの整備（bの「和東町でつながるご縁機能」とも連携）

②和東でつながるご縁機能

b-1	「食」の縁	和東町のお茶や特産品のPR、ブランド化推進、販売促進等、お茶の香りと味を楽しむための場を提供
b-2	「体験」の縁	地域外からの来訪者、地域住民、生産者等が集い、各種体験や多世代交流ができる場の整備
b-3	「教育」の縁	和東町の歴史や文化を学べる場や、住民や市場からのリクエストに応じた生涯学習の場と機会を提供
b-4	「暮らし」の縁	地域住民が日常的に集い、気軽に利用できる施設、及び就業・移住などの支援の場の提供
b-5	「産業」の縁	企業誘致の拠点や若者起業の支援の場や機会を提供。組合との連携でよりスムーズな事業立ち上げを支援。
b-6	「デジタル」の縁	ICT、IoT、AI、SNS等を活用し、和東ブランドを内外に広く示すための場を提供
b-7	「環境」の縁	和東町でのサーキュラーエコノミーの活動を発信しつつ、環境問題に意識の高い人々が集う機会を提供

Function Standard

(6-3) 導入機能のイメージ

想定される導入機能をもとに、「茶源郷 Tea Park」における導入機能のイメージを以下に示します。

(a) 道の駅としての基本機能

(a-1) 休憩機能

道路利用者及び地域住民が気軽に立ち寄ることができて、快適に休憩できるスペースの整備

<具体的機能イメージ>

24時間利用可能駐車場・トイレ、無料休憩スペース、Wifi、EV充電、コンビニデンスストア、ガソリンスタンド等



道の駅 奥河内くろまるの郷
ビジターセンター

(a-2) 情報発信機能

道路利用者の安全確保と地域の魅力を発信し、観光周遊の起点となる情報発信基地の整備

<具体的機能イメージ>

案内看板（主要観光地案内）、フィールドパビリオンの案内POP、デジタルサイネージの活用、交通気象情報、災害情報の表示等



道の駅 あいづ

(a-3) 地域連携機能

和束町らしい文化教養施設、観光レクリエーション施設などの整備（bの「和束町でつながるご縁機能」とも連携）

<具体的機能イメージ>

お茶ミュージアム、お茶農家体験、町人との交流機会の創造、商工会議所や地域団体とのイベント共催等



道の駅 道の駅あいづ湯川
「子どもの夢とおいしいもの祭り」

ふくしま産業賞を受賞した会津の企業が子どもたちのために、おいしいものや楽しいワークショップを集めたイベントを開催

Function Standard

(6-3) 導入機能のイメージ

想定される導入機能をもとに、「茶源郷 Tea Park」における導入機能のイメージを以下に示します。

(b) 和束でつながるご縁機能

(b-1) 「食」の縁

和束町のお茶や特産品のPR、ブランド化推進、販売促進等、お茶の香りと味を楽しむための場を提供

<具体的機能イメージ>

直売所、お茶関連農産物の販売、お茶体験コーナーの設置
和束茶カフェ、農家レストラン、テイクアウトコーナー等



道の駅 神戸・フルーツ・フラワーパーク大沢

(b-2) 体験の「縁」

地域外からの来訪者、地域住民、生産者等が集い、各種体験や多世代交流ができる場の整備

<具体的機能イメージ>

農業体験（お茶摘み体験）、料理教室、製茶作業体験、ものづくり体験、1日住民体験、茶畑ヨガ、ティーパーティ開催等



アグリパークゆめすぎと

Function Standard

(6-3) 導入機能のイメージ

想定される導入機能をもとに、「茶源郷 Tea Park」における導入機能のイメージを以下に示します。

(b) 和東でつながるご縁機能

(b-3) 「教育」の縁

和東町の歴史や文化を学べる場や、住民や市場からのリクエストに応じた生涯学習の場と機会を提供

<具体的機能イメージ>

各勉強会や研究会の開催、修学旅行などの研修旅行の受け入れ、お茶ミュージアムの設置、子どもの室内・室外の遊び場設置、外部講師を招いた研修の実施



道の駅 よつくら港

※道の駅 よつくら港とチャイルドハウスふくまるが開催した合同SDGs勉強会の様子。

(b-4) 「暮らし」の縁

地域外からの来訪者、地域住民、生産者等が集い、各種体験や多世代交流ができる場の整備

<具体的機能イメージ>

コミュニティスペース、コワーキングスペースの設置、就農&移住サポートデスクの設置等、交流ステーション「和東の郷」の運営強化



道の駅 やんばんるパイナップルの丘 安波

Function Standard

(6-3) 導入機能のイメージ

想定される導入機能をもとに、「茶源郷 Tea Park」における導入機能のイメージを以下に示します。

(b) 和東でつながるご縁機能

(b-5) 「産業」の縁

企業誘致の拠点や若者起業の支援の場や機会を提供。組合との連携でよりスムーズな事業立ち上げを支援。

<具体的機能イメージ>

和東町起業セミナーの開催、事業支援機会の提供、異種交流会の定期開催、商工会議所や各団体との連携等



和東ビジネスカレッジ
セミナーの様子

(b-6) 「デジタル」の縁

ICT、IoT、AI、SNS等を活用し、和東ブランドを内外に広く示すための場を提供

<具体的機能イメージ>

インターネットを通じた広告販促活動、モバイルオーダー、キャッシュレス決済、SNS発信、e-会員、ネット通販、VR/ARによるデジタル体験等



道の駅 グランテラス筑西

※道の駅グランテラス筑西が運営するオンラインショップ

Function Standard

(6-3) 導入機能のイメージ

想定される導入機能をもとに、「茶源郷 Tea Park」における導入機能のイメージを以下に示します。

(b) 和束でつながるご縁機能

(b-7) 「環境」の縁

和束町でのサーキュラーエコノミーの活動を発信しつつ、環境問題に意識の高い人々が集う場と機会を提供。

<具体的機能イメージ>

コンポスト学校の運営、TeaParkにおけるのサーキュラーエコノミーのデザイン構築と運用、定期的な環境会議の開催、先進的環境保護取り組み事例の紹介／勉強会の開催等



道の駅どまんなかたぬま

350台分の駐車場の屋根にソーラーパネルを設置することで、1年間に330世帯分の電気をまかないつつ災害対策も併用

Location planning

(7-1) エリア全体の位置イメージ (案)

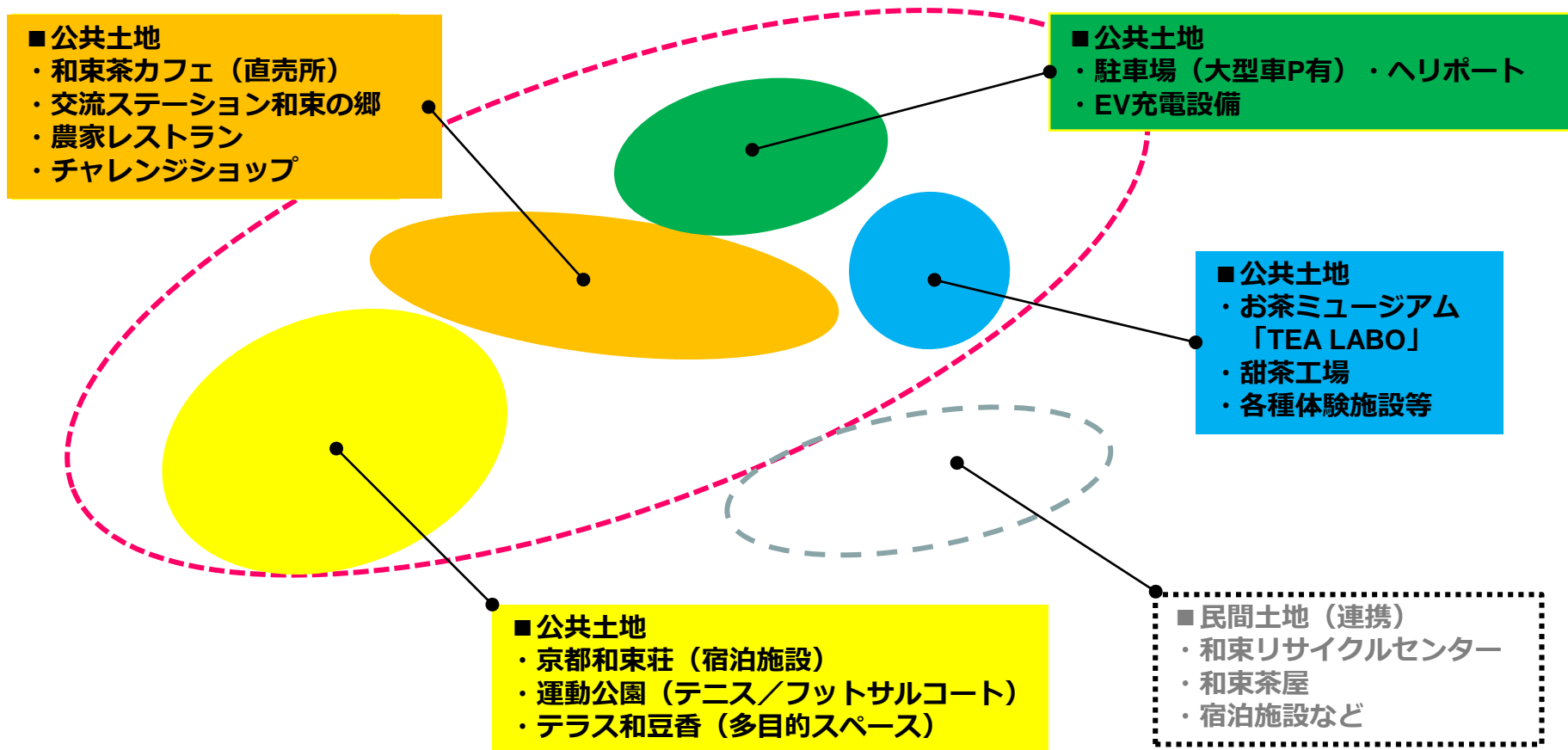
現在の「茶源郷交流エリア」を再整備して「茶源郷 Tea Park」を創設、様々な施設を下記の通り設置いたします。(※現時点での設置イメージです。)



Location planning

(7-2) エリア全体の位置と機能

現在の「茶源郷交流エリア」を再整備して「茶源郷 Tea Park」を創設、様々な施設を下記の通り設置いたします。（※現時点での設置イメージです。）



Business Scheme

(8-1) 事業運営スキーム

<事業運営スキームの概要>

①地域貢献を軸にしたビジネスに取り組もうとする民間企業に「和東町地域経済牽引事業計画」による国や京都府からの支援の流れをつくります。

②民間企業を中心にしながら、事業を推進する新たな協議会や地域内外の法人・個人からの資金提供の受け皿となる法人の立ち上げとメリット共有の枠組みを検討します。

具体的には、総務省が推進している「特定地域づくり事業協同組合制度」を活用して、道の駅運営会社を設立し、当法人を各事業会社をつなげるハブとして全体の事業をまとめていきます。

③民間事業者参画については、「道の駅」のプラットフォームは行政が計画し、事業そのものは民間事業者を公募しPFI方式（※）で実施します。

（※）「PFI方式」は公共施設の設計、建設、管理、運営について、民間の資金やノウハウを活用することを前提に、建設から運営までを事業者任せ、発注者の官側（国、地方自治体、特殊法人等の公共法人）は年間払いで経費を支払う方式。（詳細は次ページ参照）

④上記の枠組みと計画を明確にしていくことで事業の実現可能性を示し、地域創生関連助成等の活用に関して、国（総務省・経産省・観光庁等）や京都府と連携を高め、各事業支援の枠組みを強化していきます。

⑤上記以外に、必要に応じて、クラウドファンディングやエンジェル投資家など外部からの資金調達も検討します。また和東町ファンコミュニティを運営することで、会費収入や定期購入にかかる安定収入の確保を目指します。

Business Scheme

(8-1) 事業運営スキーム

「茶源郷 Tea Park」の事業手法は、維持管理・運営の主体や民間資金活用の有無により、公設公営（従来方式）、公設民営（設計+建設+指定管理、DB方式+指定管理、DBO方式）、民設民営（PFI方式）等の手法があります。これらの事業手法の概要と、公共と民間事業者の役割を以下に整理します。

(1) 公設公営（従来方式）

公共が起債や交付金等により資金調達し、設計・建設、維持管理について、業務ごとに仕様を定めて民間事業者へ個別に発注等を行う手法です。施設の運営は市が直接実施します。

(2) 公設民営（設計+建設+指定管理）

従来方式のうち、維持管理業務や運営業務を民間事業者へ単年度、又は複数年度の単位で委託する手法です。

(3) 公設民営（DB方式+指定管理）

公共が起債や交付金等により資金調達し、設計・建設を包括的に民間事業者へ委託する手法です。維持管理業務や運営業務を民間事業者へ単年度、又は複数年度の単位で委託します。

(4) 公設民営（DBO方式）

公共が起債や交付金等により資金調達し、設計・建設・維持管理・運営の各業務を長期契約として、一括で民間事業者へ性能発注する手法です。

(5) 民設民営（PFI方式）

民間事業者が自ら資金調達し、設計・建設・維持管理・運営の各業務を長期契約として、一括で性能発注により行う手法です。施設の所有権の移転時期により、複数種類があります。

本事業においては、限られた予算の中であるべく早期に各施設の実装を実現することと、民間企業のノウハウや有能人材を積極活用できることを考慮してPFI方式基本として事業を進めます。

手法	資金調達	業務			施設の所有	
		設計・建設	維持管理	運営	建設時	
公設公営	従来手法	公共	公共	公共	公共	公共
公設民営	設計+建設+指定管理	公共	公共	民間	民間	公共
	DB+指定管理	公共	公共	民間	民間	公共
	DBO	公共	民間	民間	民間	公共
民設民営	PFI	民間	民間	民間	民間	公共 民間

Business Scheme

(8-1) 事業運営スキーム

◆ P F I について

Private Finance Initiative (民間資金等活用事業)

- ①設計、建設、維持管理、運営を一括で民間事業者が実施
- ②維持管理、運営は指定管理者制度にて民間事業者が実施
- ③民間事業者が資金調達

<特徴>

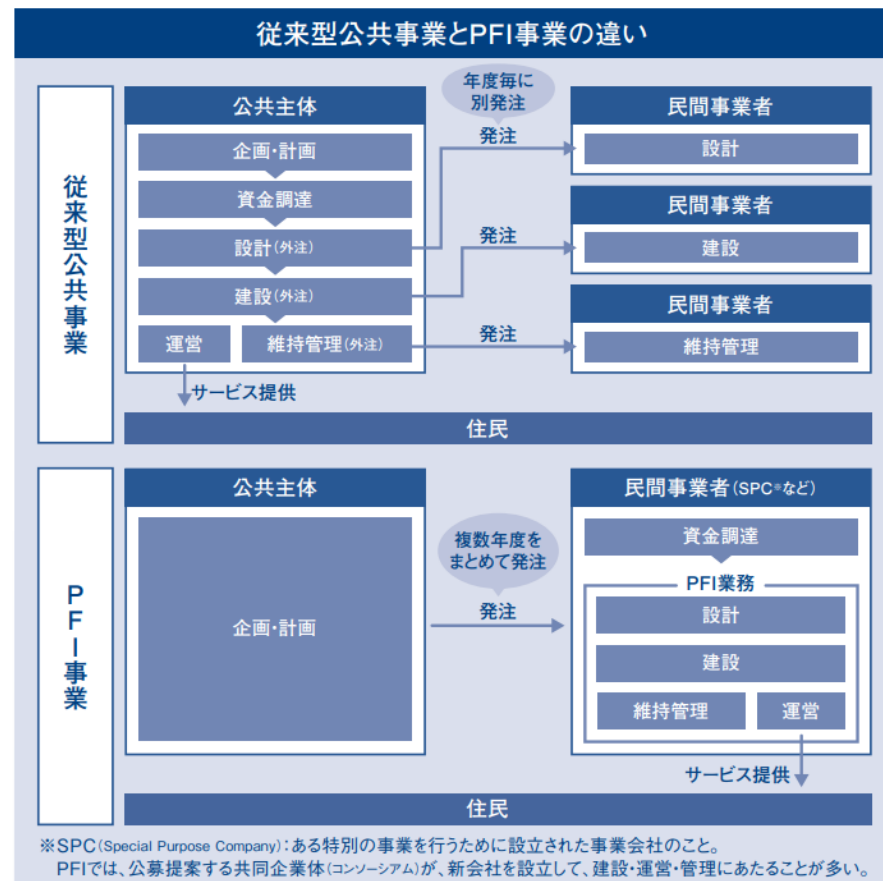
- ・施設整備費の分割払いにより、財政負担の平準化が可能
- ・民間運営ノウハウを活用し、特産品販売力強化や地元企業との協働による地域波及効果が期待
- ・設計段階で運営事業者の視点を反映できるため、管理運営段階を見据えた施設整備が可能

<留意点>

- ・発注には一定の手続き期間が必要
- ・地元企業に馴染みのない手法であるため、事業者募集段階で参画を促す工夫が必要
- ・民間にとってSPC(特別目的会社)設立の手間とコストが負担となる可能性あり

<解決の方向性>

- ・予め十分なエントリー期間を含むスケジュールを立てる
- ・事業者に求めるKPIを明確にし、判断基準をもって参画企業の募集選定を実施する
- ・SPC設立の代わりに事業協同組合への組合員参加という形式を取ることで事業者の負担を軽減



内閣府民間資金等活用事業推進室発行 PPP/PFI事例集より

Business Scheme

(8-1) 事業運営スキーム

特定地域づくり事業協同組合制度とは、人口急減地域において、中小企業等協同組合法に基づく事業協同組合が、特定地域づくり事業を行う場合について、都道府県知事が一定の要件を満たすものとして認定したときは、労働者派遣事業（無期雇用職員に限る。）を許可ではなく、届出で実施することを可能とするとともに、組合運営費について財政支援を受けられるようにするというものです。

本制度を活用することで、**安定的な雇用環境と一定の給与水準を確保した職場を作り出し、地域内外の若者等を呼び込むことができるようになる**とともに、**地域事業者の事業の維持・拡大を推進**することができます。

特定地域づくり事業協同組合制度の概要

根拠法：地域人口の急減に対処するための特定地域づくり事業の推進に関する法律（令和2年6月4日施行）

人口急減地域の課題

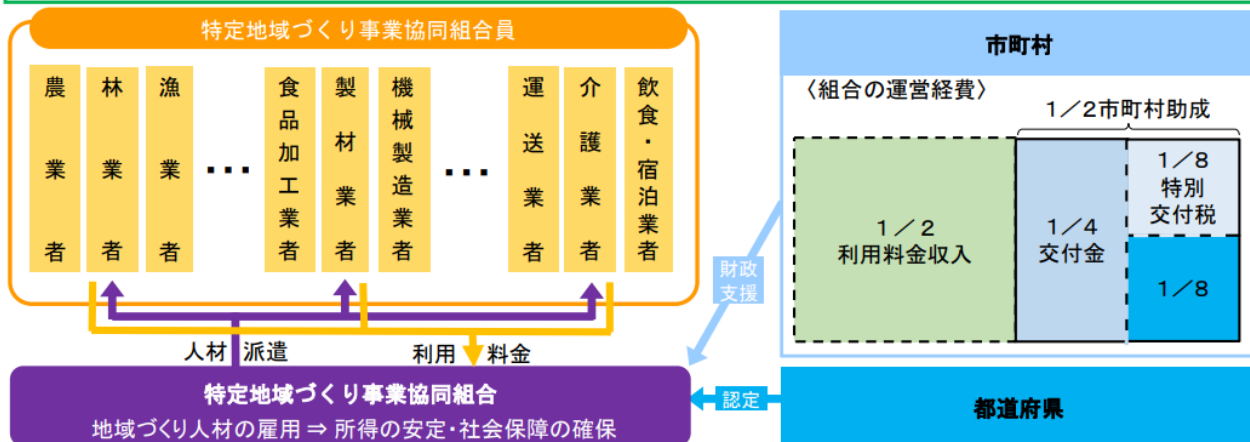
- ・事業者単位で見ると年間を通じた仕事がない
 - ・安定的な雇用環境、一定の給与水準を確保できない
- ⇒人口流出の要因、UJターンの障害

特定地域づくり事業協同組合制度

- ・地域の仕事を組み合わせて年間を通じた仕事を創出
 - ・組合で職員を雇用し事業者に派遣（安定的な雇用環境、一定の給与水準を確保）
- ⇒地域の担い手を確保

人口急減法の概要

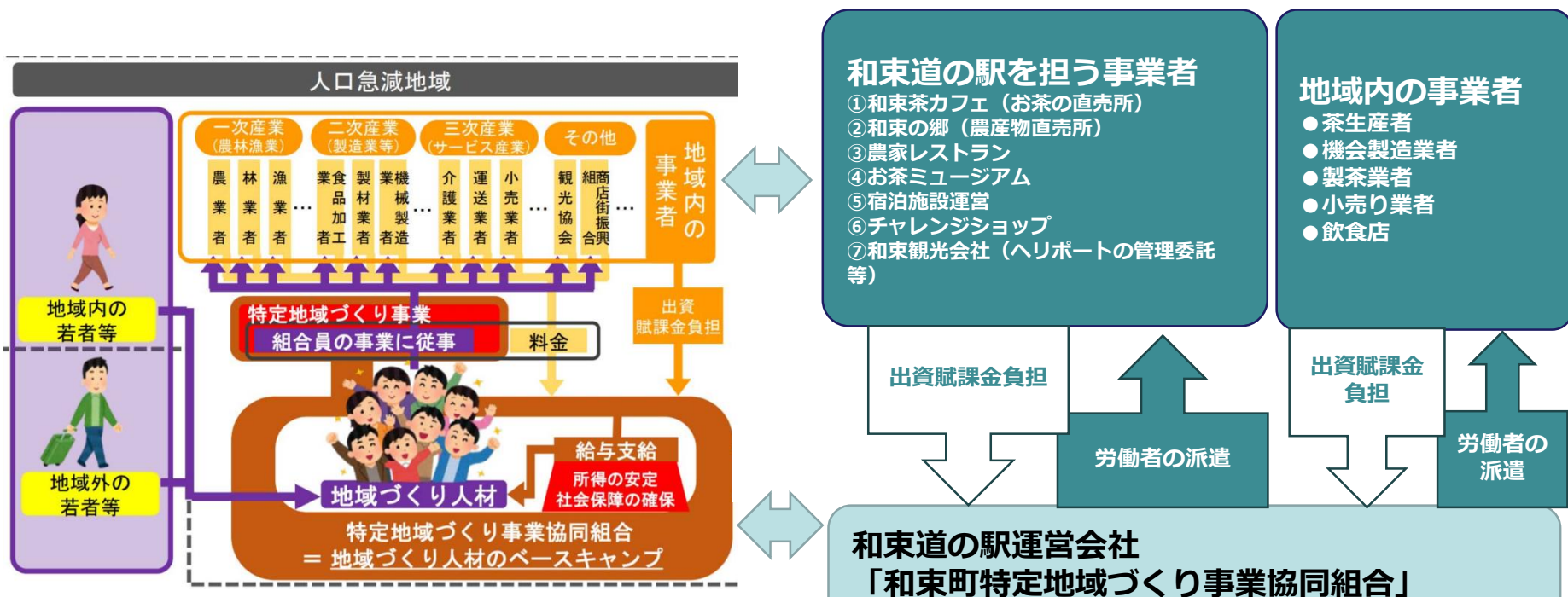
対象：人口規模・人口密度・事業所数等に照らし、人材確保に特に支援が必要な地区として知事が判断
※過疎地域に限られない
認定手続：事業協同組合の申請に基づき、都道府県知事が認定（10年更新制）
特例措置：労働者派遣法に基づく労働者派遣事業（無期雇用職員に限る）を届出で実施可能



Business Scheme

(8-2) 運営会社のイメージ

【特定地域づくり事業協同組合制度を活用した道の駅運営会社のイメージ】



※総務省「特定地域づくり事業協同組合制度」は、労働者派遣事業であり、その運営経費について国、京都府、和東町から財政支援を5年間受けられます。

その内訳は、派遣労働者の人件費及び事業費であり、運営側の事務局スタッフの人件費に対する支援はないので、事業協働組合が立ち上がるまでの間の運営費をどのように手当するかについては別途検討する必要があります。

Business Plan

(9-1) 具体的事業プランと機能連携図

「茶源郷 Tea Park」で展開する具体的な事業について以下に示します。

●和東町でつながるための機能

1. 「食」でつながる縁
2. 「暮らし」でつながる縁
3. 「体験」でつながる縁
4. 「教育」でつながる縁
5. 「産業」でつながる縁
6. 「デジタル」でつながる縁
7. 「環境」でつながる縁

具体的な事業プラン（案）	運営母体	食	暮らし	体験	教育	産業	デジタル	環境
①和東茶カフェ（直売所）運営強化	既存+α	◎	○	○		○		○
②交流ステーションの運営強化	既存+α		◎	◎	○	○	○	◎
③和東香りガーデンの設立・運営	既存+α			◎	○	○		◎
④農家レストランの誘致・設立・運営	PFI方式	◎	○			○		○
⑤お茶ミュージアムの誘致・設立・運営	PFI方式	○	○	◎	◎	○	○	
⑥宿泊施設の誘致・設立・運営	PFI方式	○	○	◎		◎		
⑦観光コンテンツの強化	事業組合	◎	○	◎	○	◎	◎	○
⑧チャレンジショップ&プレイスの運営	事業組合		○	○	◎	◎		
⑨援農PGM「ワヅカナジカン」の再構築	事業組合			◎	◎	◎		
⑩生きるための和東実践塾の開校・運営	事業組合		○	○	◎	◎		
⑪和東ファンコミュニティの創設・運営	事業組合	○	○	○	○	○	◎	○

運営母体①：既存事業+α・・・現在事業運営を行っている法人・組織の体制を基本に、機能拡充を図りながら事業運営を実施

運営母体②：PFI方式・・・PFI方式で公募した企業を中心に事業運営を実施（比較的初期投資予算が高い案件について適用を検討）

運営母体③：事業組合・・・特定地域づくり事業共同組合が運営する独立事業として実施

Business Plan

(9-2) 具体的事業プラン案の内容

<事業プラン①> 和東茶カフェ（和東茶の直売所）の運営強化

■ 和東茶カフェは**オンリーワン**の日本茶直売所&カフェ

宇治茶は、歴史・文化・地理・気象等総合的な見地に鑑み、宇治茶として、ともに発展してきた当該産地である京都・奈良・滋賀・三重の四府県産茶で、京都府内業者が府内で仕上加工したものと定義されています。つまり和東茶を含む京都府内産の茶葉に他三県産をブレンドして、宇治の茶商（茶問屋）が仕立てて、味を整えたブレンド茶です。つまり宇治茶は、宇治茶は京都ブランドではありますが、**京都産100%ではありません。**

和東のお茶は、宇治茶のベースになるお茶で、宇治茶の「里茶（さとちゃ）」或は「親茶（おやちゃ）」と呼ばれています。和東茶は、和東産茶葉のみを使用し仕立てたお茶ですから、京都府内産100%とのお茶ということになります。さらに和東の生産農家は、京都府内の他の産地とも異なり、生産農家同士が決して茶葉を混ぜることはしません。

（共同工場での合葉）つまり、各農家が独自の栽培と加工法で仕立てたシングルオリジンティです。よって、今年仕立てたお茶の味は二度と同じものにはなりません。ワイナリーと同じです。

また、和東町の総面積は6,500haほどですが、地区によって土壌に含まれる成分が異なる多様な土壌で形成されています。つまり、**「多様なテロワールの上に300軒の農家の想いと生産技術により生まれたクリマの集積」**が和東茶です。

和東茶カフェは、和東の生産農家のシングルオリジンティ（京都府産100%）を300品以上揃えた**全国唯一の直売所**です。和東の生産農家が手塩にかけて育てた和東茶を介して、お客様と生産農家、また日本の原風景を留めた**「茶源郷」**と呼ばれる和東の町を繋ぐ、「茶源郷 Tea Park」の中核施設とします。

これまでの和東茶カフェの運営を踏襲しつつ、よりお客様にとっての利便性と訴求力を高めることで現在の売上を伸ばし、**年商7,000万円**を目指します。

Business Plan

(9-2) 具体的事業プラン案の内容

<事業プラン①> 和東茶カフェ（和東茶の直売所）の運営強化

【和東茶カフェから始まる地域活性コミュニティのイメージ】

1. 価値：「和東ならではの」のカフェ・ショップ・体験

- ① 宇治茶の主産地として育まれてきた生産文化を表現するとともに、和東の生産者のお茶への想いを一緒に産直京都府内産（和東町産）100%のお茶しか販売しない全国唯一のお茶の直売所
- ② 自然を育み維持し、21世紀に残していくため、環境にやさしい循環型農業に挑戦します

2. モノ：観光事業の拠点化（茶源郷和東のランドマーク）

- ① 茶源郷 Tea Parkに「コト・カウンター」を設置し、お茶、自然体験、歴史体験、ウエルネスツーリズムを満喫
- ② 和東茶や循環型農業で栽培した地域の食材を使用した「食」によるおもてなし（→事業プラン④へ）
- ③ 茶源郷和東を様々な言語で世界に情報提供（事業プラン⑪へ）
→外国人が日本語でコミュニケーションがとれる「やさしい日本語」対応（プラスONEの観光）
- ④ お茶の生産文化や生成技術に触れることができるお茶のミュージアムと体験用&地域内経済循環拡大のための抹茶加工施設の併設（後述）（→事業プラン⑤へ）

3. コト：茶業の6次産業化による都市農村交流（→事業プラン②へ）

- ① お茶の生産文化発信と景観資産による都市農村交流
- ② 循環型農業による都市農村交流

4. ヒト：地域コミュニティの再生

- ① 茶源郷 Tea Parkで「やりたいこと」で自己実現による雇用の創出（→事業プラン⑧⑨⑩へ）
- ② 多目的スペースで、マルシェ、ライブ等「和東でやりたいこと」を表現できる場を提供（事業プラン②へ）
- ③ 和東で起業したい方に場の提供「チャレンジショップ」の運営（事業プラン⑨へ）
- ④ 「和東の魅力を発信したい」「和東に人を迎えたい」同じ想いを共有し、新しい和東を創造していく人材の育成

Business Plan

(9-2) 具体的事業プラン案の内容

<事業プラン②> 交流ステーション「和東の郷」の運営強化

■循環型農業によるサーキュラーエコノミー活動の拠点施設として位置づけます

財団法人都市農山漁村交流活性化機構による直売所の利用者調査によれば、直売所の商品選択の基準として、「鮮度」「価格」「地元産」に加え、今後は、「農薬使用」や「栽培方法」をあげています。大手量販店でも直売所の特長を積極的に取り入れて、インショップや地場産野菜コーナーを展開しています。

「交流ステーション和東の郷」でも、店舗コンセプトを立て、オンリーワンの農産物直売所として運営していくことが重要です。「交流ステーション和東の郷」では、**農法を通じた地域住民の交流と循環型農業により、栽培された野菜の販売を軸に運営します。**

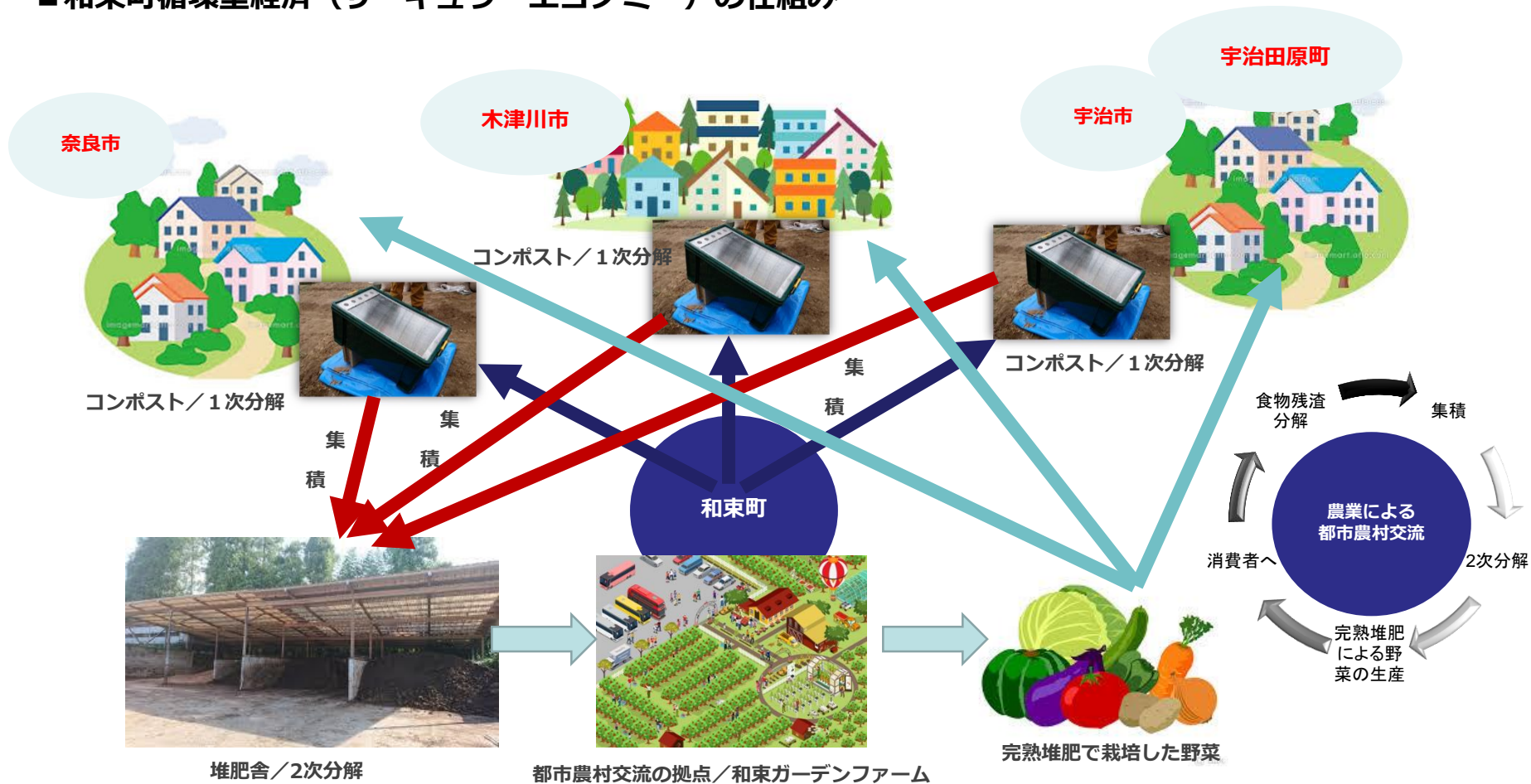
また、木津川市など近隣の新興住宅地の家庭残渣を一次処理し、それを和東町で二次発酵させ、完成した堆肥をプランターなどで新興住宅のベランダや、家庭菜園に戻すことや、和東町でこの堆肥を使っての野菜栽培を行い（和東香りガーデン）、新興住宅地のキッチンに届けるなど、木津川市などの新興住宅地と和東町が農法で繋がることにより、経済活動と地域間交流という両面の流れを起こすことができます。

Business Plan

(9-2) 具体的事業プラン案の内容

<事業プラン②> 交流ステーション「和束の郷」の運営強化

■和束町循環型経済（サーキュラーエコノミー）の仕組み



Business Plan

(9-2) 具体的事業プラン案の内容

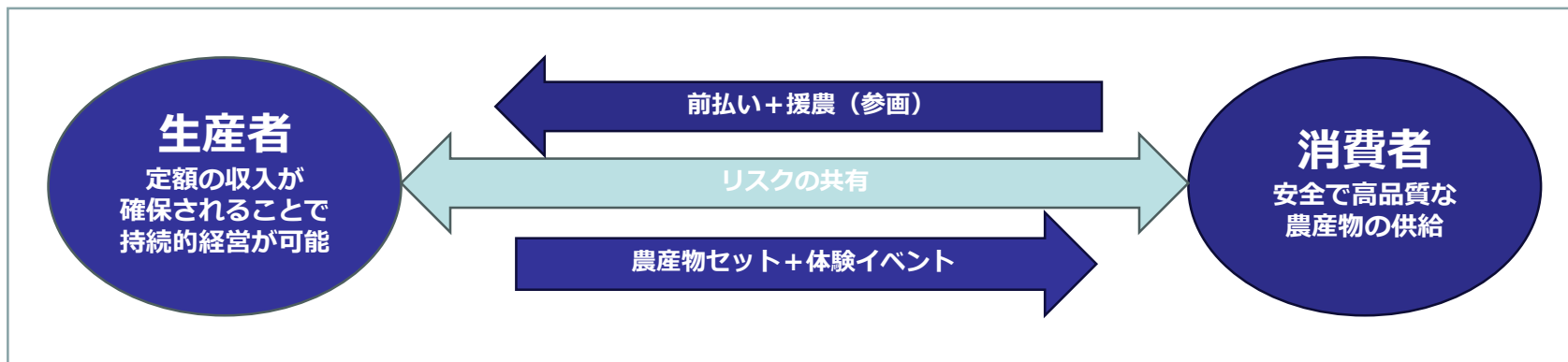
<事業プラン③> CSAによる農園運営「和束香りガーデン」の設立・運営

■ CSAによる農園運営のトライアル運用

CSA（地域支援型農業）とは、「Community Supported Agriculture」の略称で、生産者と消費者が連携し、前払いによる農産物の契約を通じて相互に支え合う仕組みです。CSAはアメリカで1980年代に最初に始まったとされ、現在では欧米を中心に世界的な広がりをみせています。CSAは農作業や出荷作業などの農場運営に消費者が参加する特徴をもち、生産者と消費者が経営リスクを共有し、信頼に基づく対等な関係によって成立します。CSAはコミュニティ形成や有機農業の振興など、地域への多様な効果をもたらす新たな農業モデルとして注目されています。

CSAの代金前払いは、天候不順による不作のリスクを、消費者と農家の双方が共有することを意味しています。農家からすれば、収量が減少したとしても定額の収入が確保され、安定した経営のもとで農業に従事できます。一方、消費者は、顔が見える関係のなかで、年間を通じて安全で質の高い農産物を入手することができます。

CSAがもつコンセプトは、従来であれば消費者のままであった多様な人材を、農業の担い手あるいは支援者へと導き、消費者参加型の農業へと展開することができるとともに、地域の消費者間のコミュニティ機能の増進や、農地保全といった地域に及ぼす様々な効果の発揮にもつながります。



Business Plan

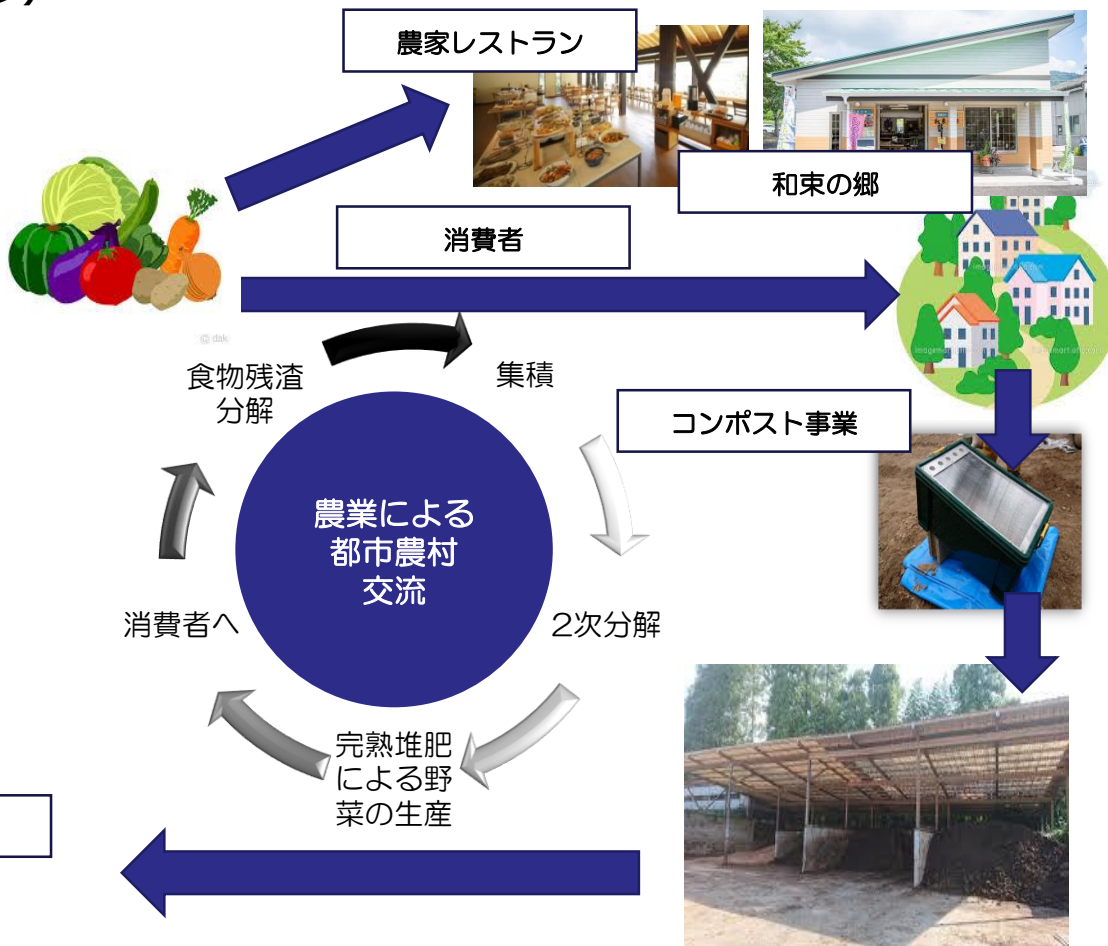
(9-2) 具体的事業プラン案の内容

<事業プラン③> CSAによる農園運営「和束香りガーデン」の設立・運営

■ CSA運営による農園（和束香りガーデン）



CSA運営による農園（和束香りガーデン）



Business Plan

(9-2) 具体的事業プラン案の内容

<事業プラン④> 和東の食材を活用した農家レストランの誘致・設立・運営

● 昼食難民問題の改善

和東町は、宇治茶を支える京都府内最大の茶産地であり、この15年余り、茶産業の6次産業化を推進するため、茶業の生産文化発信を軸にした観光産業への参入を目指し、取り組んできました。その結果、観光消費額は約10倍、観光人口は約6倍に増加しました。

しかしながら、観光業で重要な食の提供（最も美しい村連合加盟地域では必須事項となっている）をする地域特産品を活かした農家レストランがありません。せっかく和東町に来ていただいても、「昼食難民」が溢れ、その課題解決に早急に取り組まなければなりません。来町者が気軽に安心して楽しめる農家レストランが必要です。

● 循環型農業による持続可能な農業の展開

茶産業は、農業の中でも参入障壁が高い産業です。和東町では、移住定住施策として新規就農しやすい「第2の農業」を推進しています。「第2の農業」とは、持続可能な社会を目指して、和東町の基幹産業である茶産業から出る廃棄茶葉や家庭ごみ、給食センターの食物残渣などをリサイクルし、有機堆肥（完熟堆肥）に変え、その堆肥によって、作物を栽培する取組みを進めています。すでに完熟堆肥を含め、培養土や発酵を促進する床材などは開発しています。（監修：農林水産省農業の匠／育土研究所 橋本力男氏）

和東茶だけでなく、循環型農業により栽培した野菜などを提供するレストランを開設します。

さらにレストランは、「ゴミゼロ」レストランを実践し、リニア型経済からサーキュラー型経済の拠点施設とします。



Business Plan

(9-2) 具体的事業プラン案の内容

<事業プラン⑤> お茶ミュージアム「TEA Labo（仮称）」の誘致・設立・運営

- 来町者が体験して、学び、楽しめる「茶源郷 Tea Park」の核となる施設
- お茶の生産文化や生成技術を体験できる「お茶ミュージアム」の設置
- 地域内経済循環拡大のための「抹茶加工施設」を併設

● 修学旅行や研修旅行への体験型コンテンツの提供

和束町では、平成20年「京都府景観資産」に「生業の茶畑景観」が第1号登録されてから、茶産業を軸にした「お茶の生産文化発信」による観光産業への参入を試み、この15年で交流人口、観光消費額は、当初の10倍に成長し、観光産業参入への基盤整備はできたと考えます。特に近隣の奈良や京都、大阪、神戸、名古屋等の国際文化都市圏からのインバウンド需要と修学旅行を含む教育旅行の市場開拓を進め、コロナ感染症前には、教育旅行の「農村民泊体験」は1,300民泊を達成しました。和束町は京都市と奈良市の中間地点にあり、関東方面や中国・九州地方からの修学旅行の場合、修学旅行のコースを変更せず、「農村民泊体験」を実施できるという他地域と差別化できる地理的要件が備わっています。

この間、観光コンテンツの充実にも取り組んできましたが、雨天時の体験コンテンツが不足していますし、工場見学もいつでも対応できる状況ではありません。また、令和6年度には「鷲峰山トンネル」が開通し、京都市や東海地方へのアクセスが格段に短縮され、商圈も広がりますし、大阪万博からの誘客を図るためにも、集客施設の核となる「お茶ミュージアム」の開設は必要不可欠です。

● 抹茶の「完全産直」を目指して

和束町では、抹茶の原材料となる碾茶の生産量は、年間540 t（令和2年度京都府茶業統計）です。

もともと和束町は宇治茶の主産地であり、煎茶の産地で有名でしたが、約20年前外資系大手企業が、アイスクリームやスイーツの原材料として、大量の抹茶を必要としたため、近年は主に食品用原料抹茶となる碾茶の生産が盛んでした。大量生産地である静岡県や鹿児島県が食用抹茶の生産に取り組むようになる一昨年前までは、碾茶の生産量は日本一でした。

和束町は茶業界に「食用抹茶」というジャンルを構築したと言っても過言ではありません。

最近では、茶業の6次産業化も進み、小規模なBtoBやBtoCで、和束抹茶の産直需要も増加傾向にあります。

しかしながら、和束には碾茶を挽く工場はなく、多くの抹茶は1次加工した後、宇治市を中心とした茶問屋にOEMで抹茶に仕立てています。加工費は、1 kg当たり1,500円掛かることから540 tの加工費は約8億円となります。抹茶を挽く工場ができれば、地域内で経済循環を促進でき、観光事業と連携すれば、外貨獲得にもつながります。

Business Plan

(9-2) 具体的事業プラン案の内容

<事業プラン⑤> お茶ミュージアム「TEA Labo (仮称)」の誘致・設立・運営

- 来町者が体験して、学び、楽しめる「茶源郷 Tea Park」の核となる施設
- お茶の生産文化や生成技術を体験できる「お茶ミュージアム」の設置
- 地域内経済循環拡大のための「抹茶加工施設」を併設

● お茶の成分分析センターの設置

和束町は、地質学上も特徴があり、地域によって土壌の成立ちが違います。そこで育まれた生産者のお茶は成分の含有量の違いにより特徴が出ます。つまり、**多様なテロワールと生産者各々が代々育んできた生産技術によるクリマの集積**と言え、ワインの産地（ワイナリー）と似ています。

この特徴を生かしながら、訪れたお客様が和束のお茶を「楽しむ」「体験する」「選ぶ」と言った「おもてなし」を実践するとともに、販路形成につなげます。

● 碾茶バブルの終息による新たな販売形式の構築

和束町は、全国的に見れば、生産量は約2%とにすぎません。大生産地が食用抹茶の生産に取組めば、茶価の価格も下がります。さらに日本社会の生活環境・文化の変化により、高額に取引されていた煎茶や玉露等のお茶が売れなくなっており、お茶の消費先も海外に求まなければならなくなった今日、産地としても新たな販売形式を構築していかなければなりません。



Business Plan

(9-2) 具体的事業プラン案の内容

<事業プラン⑥> 宿泊施設の誘致・設立・運営



■ 民間事業者を誘致し、魅力的な宿泊とワーケーションのインフラを整備します。

● 楽しく働き、学ぶ環境整備

現在和束町は、急速な過疎化により、産業への影響だけでなく、地域コミュニティの減退により、地域住民のマンパワーが消滅しつつあります。よって、少子高齢化により、急速に進む過疎化に歯止めをかけるため、移住定住施策に取り組んでいく必要があります。お試し居住や短期滞在等の機会を通じて、今こそ「茶源郷和束」のコンセプトである「自然の恵みを未来に継承しつつ、21世紀を担う新産業を創造し、人々が笑顔で住まうまち」の実現に向けて、和束町で楽しく働き、学ぶ環境整備が必要です。

● 東京一極集中からの脱却に向けた受け皿づくり

世界的なコロナパンデミックにより、日本経済も大きな打撃を受けましたが、リモートワーク等が進み、企業は、都会にオフィスを持たなくても仕事ができることに気づき、東京一極集中からの脱却が進んでいます。私たちは、コロナ禍をチャンスに捉え、withコロナafterコロナ時代に対応したビジネスモデルを構築し、対応していく必要があります。

● 宿泊施設の開設／タイムシェア別荘&ワーケーション型宿泊施設などの誘致

和束町では、修学旅行を含む教育旅行の受入れ体制整備として、農村民泊体験を軸にした宿泊観光に取り組んできましたが、宿泊施設が足りないのが現状です。既存の宿泊施設の稼働率を高めつつ、新たな取り組み実施していく必要があります。

最近、効率的にマイカーや住居、オフィスをシェアするということが増加していますが、今後は手軽に別荘を持つという観点から別荘をシェアするといった動きが出てきており、国産ログハウスメーカーが、タイムシェア別荘を運営しています。また、既存の空き家を改装してサブスク型住居を提供している事業者もあります。こうした民間事業を誘致し、会員制宿泊施設として費用を抑えながら魅力的な宿泊施設の実装を目指します。

さらに和束町では、令和6年度内に「鷲峰山トンネル」が開通し、京都や東海地方からのアクセスが格段に良くなる他、近くには巨大アウトレットモールの建設も決まっています。「茶源郷和束」の観光コンテンツの強化を図るとともに、相楽東部の観光の拠点として活用し、宿泊者等の移住定住促進に向けた取組みに繋がります。

Business Plan

(9-2) 具体的事業プラン案の内容

<事業プラン⑦> 観光コンテンツの強化

【観光資源の磨き上げによる観光人口30万人の達成】

和束町第4次総合計画の「行ってみたい茶源郷和束の郷づくり」における25万人の交流人口の達成に向け、宇治茶を支えてきた生産文化を発信する茶産業を軸にした観光産業への参入に取組み、観光産業の基盤は整備できたが、和束町第5次総合計画がスタートし、観光人口30万人の早期達成に向けては、今後、観光地経営のマスタープランとなる地域計画の構築・磨き上げ、および宿泊施設・観光施設の整備、空き家の活用等、面的DXなど、地域・産業の「稼ぐ力」を強化するための取組を推進しなければなりません。

● WithコロナAfterコロナの観光

観光産業は、コロナ感染症前の状態に戻ることはなく、WithコロナAfterコロナにおいては、違った形態へと変化しながら、再生すると言われています。これからの旅行の考え方の3要素は、「開放的」「少人数」「清潔(健康)」と言われています。今後は、教育旅行やインバウンド観光だけでなく、近隣の大都市からの集客も重要です。(半径100km、自動車で2時間圏内の人口は約3,000万人)

● 「地域限定旅行業(※)」の活用

観光による地域活性化施策として誕生した「地域限定旅行業」は、取得試験が比較的簡単、登録資金も少額で済むことから、平成24年に創設されてから8年で登録事業者数が10倍に増加しました。

これは、観光業に特化した着地型の観光業ですが、旅行代理店とタイアップし、リスクヘッジをすることで、多様な観光プランを広く提供することができました。

(※) 地域限定旅行業とは、出発地、目的地、宿泊地及び帰着地が営業所の存する市町村、それに隣接する市町村及び、観光庁長官の定める区域となる市町村に収まっている旅行商品に限り取扱えるという特色のある旅行業登録のこと。その代わり、定められた営業保証金は150,000円と安価。

Business Plan

(9-2) 具体的事業プラン案の内容

<事業プラン⑦> 観光コンテンツの強化

【観光資源の磨き上げによる観光人口30万人の達成】

●観光ツアーの高付加価値化

<インバウンド観光再開に向けて地域が取り組むべき3つの事>

- 1) 地域全体として高付加価値化に取り組むこと
- 2) 物販に力を入れる（魅力的な商品であれば、少人数でも売上げを確保できる）
- 3) 守りを固める（ガイド等の人材育成、多言語対応、通信インフラの整備、食の多様性）

<高付加価値化を実現する7つの切り口>

- 1) ストーリー性（和束茶の歴史的背景から現在の和束ブランドをどう構築したか等）
- 2) 本物を見せる、売る
- 3) 限定感、特別感を演出する
- 4) デザイン
- 5) 品揃え
- 6) 箔をつける（ブランド力）
- 7) 地域一体となった取組み（地域還元）

●BtoC型や小さなBtoBの観光プラン造成と仕組み

高付加価値で持続可能な観光地域づくり戦略

1. 地域資源を保全しながら観光するコンテンツを創る
2. 地域経済を広く活性化し、地域一体での取組みを促進する
3. 雇用の維持・確保を図るための労働環境の改善に取り組む
4. オーバーツーリズムを未然に防ぎ、住民の理解を得る
5. 一過性の補助金頼みではなく、持続的な戦力の仕組みづくり

以上のことを重視しながら、観光庁が推進する「住んでよし、訪れてよし」のまちづくりを目指します。

Business Plan

(9-2) 具体的事業プラン案の内容 ～ <事業プラン⑦> 観光コンテンツの強化 ～

【和束町のSWOT分析】

	プラス要因	マイナス要因
内部環境	<ul style="list-style-type: none"> ●強み (strong) ①京都市街から車で1時間アクセス 鷺峰山トンネルバイパス開通で30分 ②多様なプレイヤー ③和束茶ブランド（近畿経済産業局の「世界にはばたく地域ブランド磨き」に和束茶が認定） ④知られていない隠れた自然な資源 ⑤歴史的背景・ストーリー性 	<ul style="list-style-type: none"> ●弱み (weakness) ①受入環境の整備が不十分 ②観光相談窓口、地域ガイド不足、デジタル化 ③地域内の公共交通機関の利便性が悪い ④二次交通がない（自家用車がマスト） ⑤観光に対する地元住民の理解 ⑥宿泊施設等、大人数を受入れられる施設がない
外部環境	<ul style="list-style-type: none"> ●機会 (opportunity) ①抹茶ブーム ②観光による誘客への地元業者の期待 ③旅行スタイルの変化 ④SDGsがトレンド ⑤大阪万博2025の開催 ⑥近隣市町村に大型集客施設が建設 	<ul style="list-style-type: none"> ●脅威 (threat) ①宇治茶との差別化 （和束茶ブランディングとの兼ね合い） ②和束茶以外の観光と体験 ③夏・冬の観光コンテンツ

【観光コンテンツ強化施策案】

- (施策その1) ウエルネスツーリズムの推進（和束緑泉コースの利用推進）
- (施策その2) 景観資産を活かしたフィルムコミッションの推進
- (施策その3) 後醍醐天皇、楠木正成の大河ドラマ誘致（関連自治体との連携）
- (施策その4) 相楽東部地域連携によるアウトドアスポーツイベントの開催
- (施策その5) IOTを活用した観光ツールの充実（スタンプラリー、ポイント付加）
- (施策その6) 観光ガイドの育成（ユーザーに合わせた対応力の強化）
- (施策その7) 修学旅行の受入れ強化及び修学旅行受入れ地域の拡充と連携強化
- (施策その8) 海外からの研修旅行の受入れ強化（訪日留学生を含む）
- (施策その9) 地域の歴史、自然、文化、産業による教育（体験）プログラムの充実
- (施策その10) NFTを活用した販売ツールの構築
- (施設その11) マイクロツーリズム推進のための近隣市町村との連携強化
- (施策その12) ヘリポートの設置（有事の際は、ドクターヘリや災害救助に活用）
- (施策その13) 和束茶を含む「茶源郷和束」のブランド力の強化と発信

Business Plan

(9-2) 具体的事業プラン案の内容

<事業プラン⑧> チャレンジショップの設立&運営



■ 新たな事業にチャレンジする商工店主や移住者をサポートするための場を提供します。

① 安価な資本で、店舗設営が可能

- デザインコンテナを活用した店舗をリースし、実際の店舗を運営しながらビジネスモデルを構築
- 店舗を構えながら、TeaParkに参画するので、比較的集客し易く管理費を節約できる分、将来の投資に見立てることができる

② 3年計画で、事業をシュミレーション

- その間、他の店舗運営者との定期的なディスカッションや専門アドバイザーから経営指導を受け、独立を目指す

③ 将来の移住・定住の受け皿づくり

【一般消費者へ向けて】

- ① 地元ならではの特産品
- ② 商店街の賑わい

【UIJターン者へ向けて】

- ① スモールビジネスのノウハウ
- ② 初期投資を抑えることができる店舗

【和東町へ向けて】

- ① 雇用の創出
- ② 移住定住の促進

■ 昼食難民問題の改善

和東町は、宇治茶を支える京都府化最大の茶産地であり、この15年余り、茶産業の6次産業化を推進するため、茶業の生産文化発信を軸にした観光産業への参入を目指し、取組んできました。その結果、観光消費額は約10倍、観光人口は約6倍に増加しました。

しかしながら、観光業で重要な食の提供（最も美しい村連合加盟地域では必須事項となっている）をする飲食店が不足しています。せっかく和東町に来ていただいても、「昼食難民」が溢れ、その課題解決に早急に取り組まなければなりません。

■ 茶産業の6次産業化の推進と移住定住促進

和東町は、茶産業を軸にした生産文化発信による観光産業への参入に取組んできました。その背景として、若者の流出に歯止めをかけるとともに、茶産業の6次化により、新たな雇用創出による移住定住の促進を図るためです。今回の取組みは、UIJターン希望者が起業しやすい環境整備と外貨獲得及び地域内経済循環の促進のために取組みます。

Business Plan

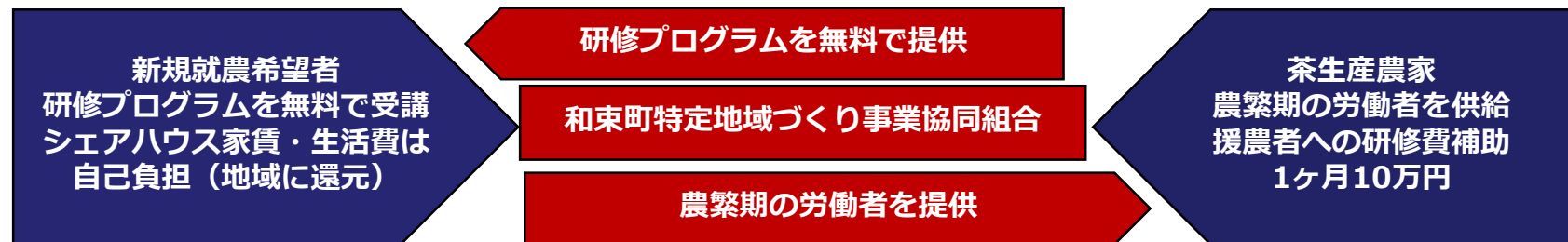
(9-2) 具体的事業プラン案の内容

<事業プラン⑨> 援農プログラム「ワツカナジカン」の再構築

【農繁期の援農支援と新規就農希望者とのマッチング】

農繁期になれば、いずれの農家も人手が足りません。また一人当たりの雇用賃金は、1ヶ月約20万円掛かるとされ5月～7月にかけてとなると約60万円の出費となります。和束町では、「和束町雇用促進協議会」が「ワツカナジカン」

という援農支援の取組みを進めてきました。これは、働きながら地域で暮らし、地域の人たちとの交流や研修の機会を提供するというプログラムです。このプログラムをブラッシュアップするとともに、本気で新規就農を志す人たちを紹介することで、生産農家と新規就農希望者、そして和束町にとっても茶業後継者の確保と移住定住促進となり、三方よしの取組みとなります。



Business Plan

(9-2) 具体的事業プラン案の内容

<事業プラン⑩> 生きるための和東実践塾の開校

【学校教育を補てんする地域の公教育とリカレント教育の促進】

● 未来の担い手の育成

今回の道の駅のコンセプトにもなっている「人が育つ道の駅」「常に社会的課題（地域課題）と向き合い、進化する道の駅」とあるように、道の駅の取組みを通じて、未来の地域を担える人材の育成は必要不可欠です。そのため投資は、道の駅に参画する企業としての責務でもあると考えることから、収益の一部を人財育成に投資します。

● 和東町雇用促進協議会「茶源郷ビジネスカレッジ」の事業継承

和東町では、平成20年度から今日に至るまで、厚生労働省の委託事業により、地域の特質を活かした新たな産業お越しとそれを担える人材教育に取り組んできました。この15年間の取組みが今回の「道の駅再興」にも生かされています。人財育成＝まちづくり（地域コミュニティの活性化）は誰も疑う余地はないと考えます。この取組みは、今後も継続し、地域の財産としなければなりません。

● 公教育を補填する教育の充実を目指して

少子高齢化を止めるもう一つの「鍵」は子育て環境の整備です。公教育の無償化や生活環境サービスの充実のほかに教育の充実が大変重要です。公教育の他に教育環境を整えることは保護者にとって、住む場所を考える時の重要なポイントになります。よって、公教育の現状を鑑み、アントレプレナー（起業家養成）教育・語学教育・IT教育・郷土の歴史文化教育等の生きる力を育む学習塾の開設が必要と考えます。



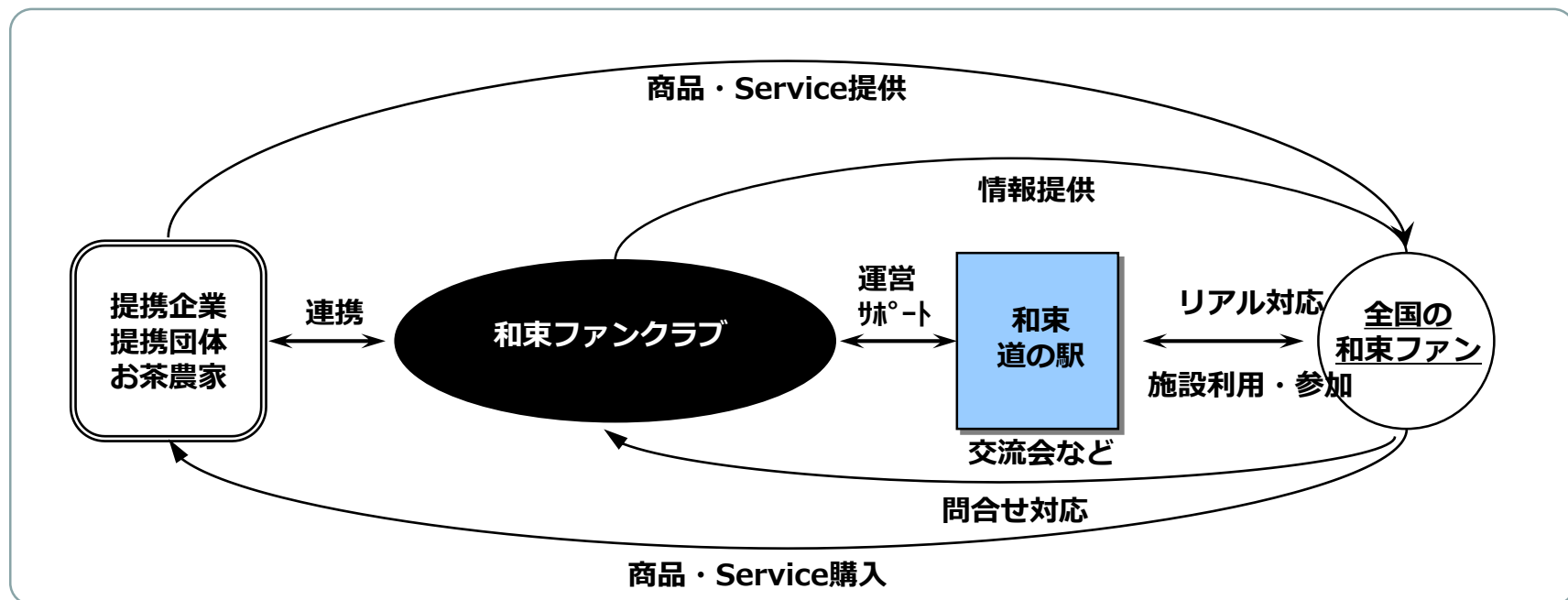
Business Plan

(9-2) 具体的事業プラン案の内容

<事業プラン⑪> 和東町ファンコミュニティの創設・運営

■ 『和東ファンクラブの創設』 ~ 「One to One Marketing」 の実現体制を構築 ~

インターネットや携帯電話の普及が進み、今やSNSを使ったマーケティング戦略は地域認知度を高めていく上で欠かせないものとなっています。IT技術の進化や新たなプラットフォームの出現により、全国の自治体でも様々な実験的取り組みがなされている中、和東町に置きますと、第一に和東町のファン層をきちんと認識し、ファン層と定期的いきちんとコミュニケーションを取ることで、コアファン層の獲得・拡大を大切にしていきます。将来的には、多拠点生活などで和東町を訪れる関係人口を増やすことを目的に、バーチャル町民制度（e-和東町民）等を導入することで、様々なサービスを日本全国&世界中の方へ提供するような仕組みを目指します。

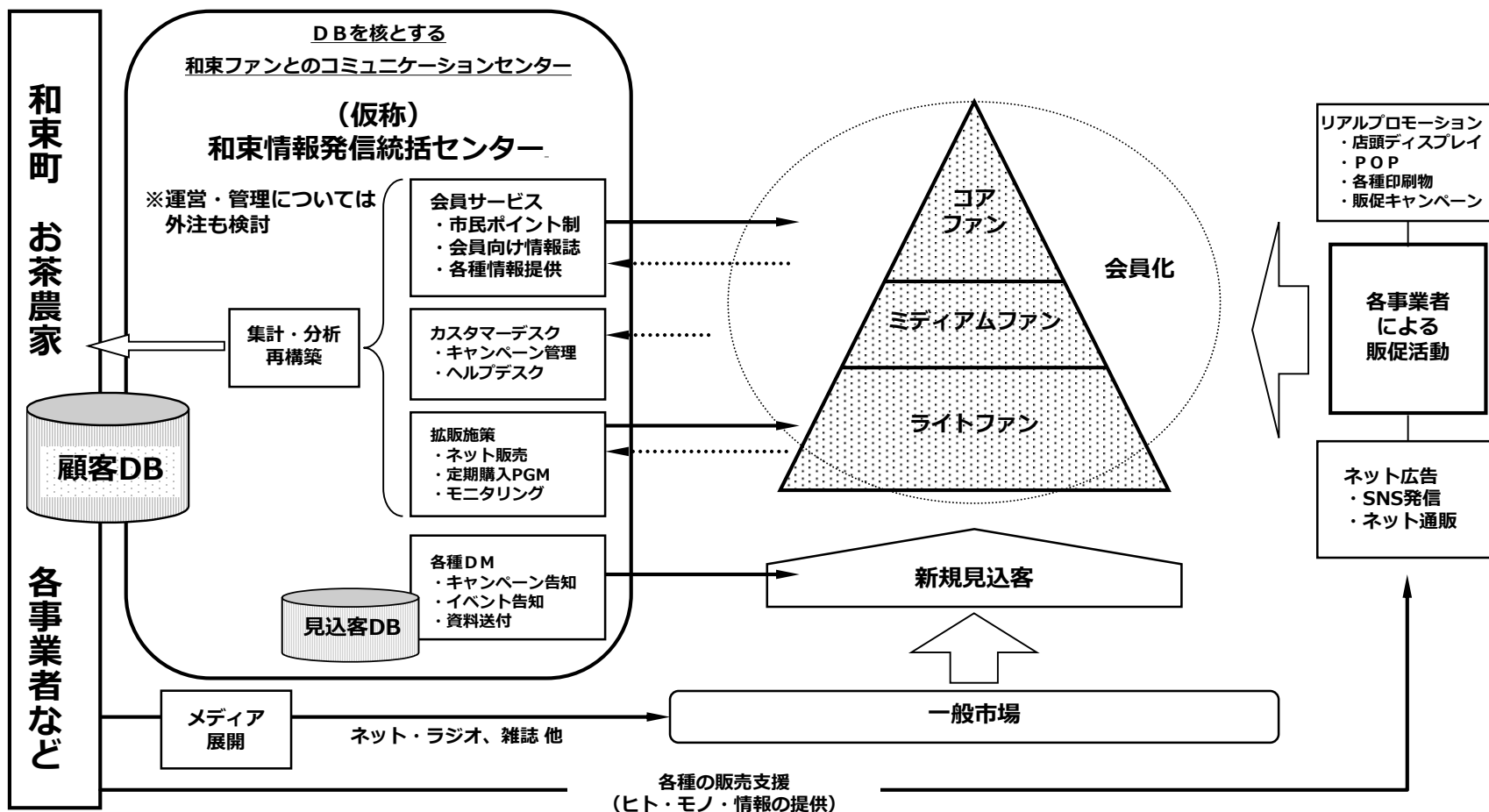


Business Plan

(9-2) 具体的事業プラン案の内容

<事業プラン⑪> 和東町ファンコミュニティの創設・運営

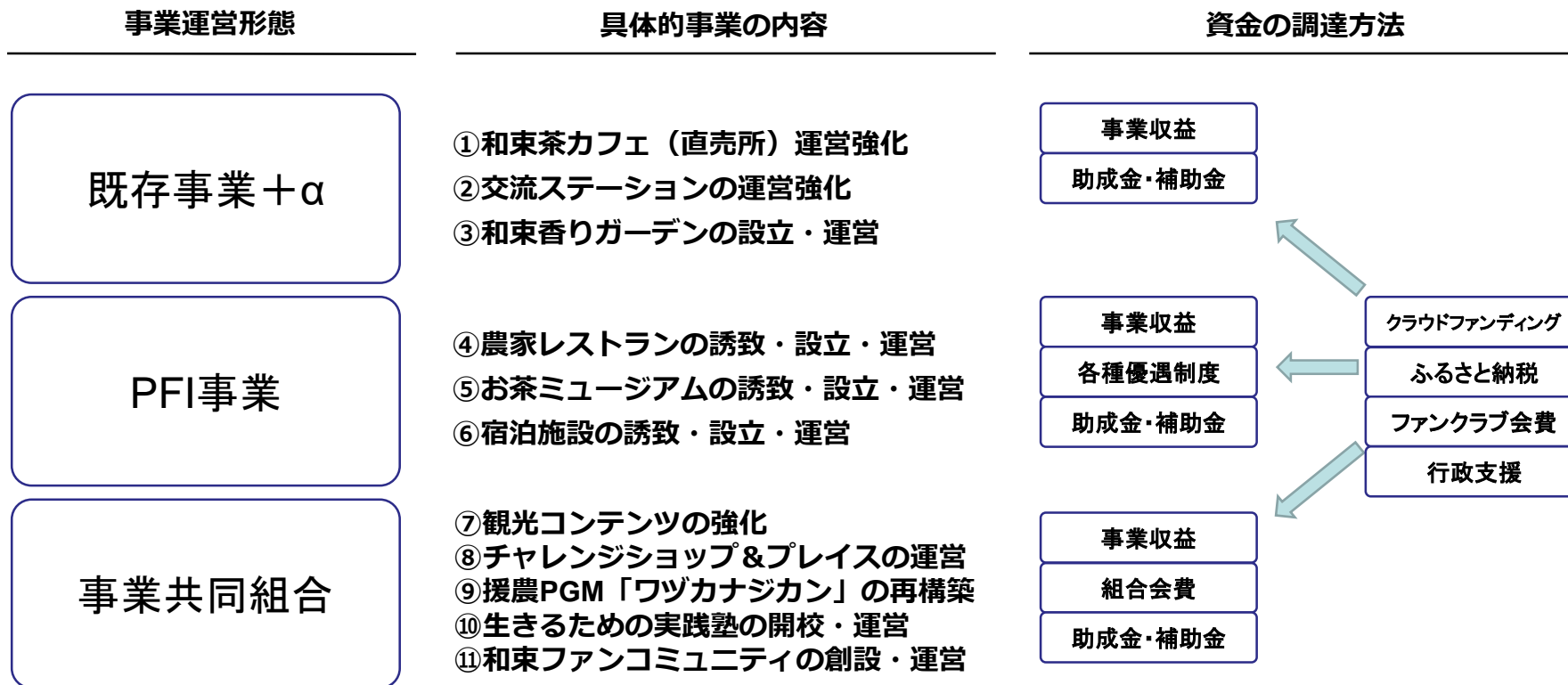
和東町と接点を持ったお客様をファン化し固定客として定着するため、様々な情報を戦略的に発信・統括する仕組みを新たに整備していきます。



Finance

(10-1) 資金調達の方法

展開する各事業については、**独立採算制を基本**として各事業が自立できる形で運営を行います。一方、クラウドファンディングの活用や法人版ふるさと納税制度の活用、ファンクラブ会費などの活用も視野に入れて、行政や住民への財政負担を極力かけない形で進めることを基本とします。



Finance

(10-2) 期待される経済効果

【茶業関連産業30億円を達成するための事業／11本の柱】

以下の11事業で年商3億円超を達成し、和束町茶業関連産業30億円を達成する基盤とします。

- ①「和束茶カフェ」の販売力強化（年商7,000万円）
- ②「交流ステーション・農産物直売所和束の郷」の販売力強化（年商3,000万円）
- ③「和束香りガーデン」（コンポスト事業とCSA方式による農園）の運営（年商2,260万円）
- ④農家レストランの運営（ゴミゼロレストラン）（年商2,700万円）
- ⑤TEALABO（お茶ミュージアム）の運営（年商3,350万円）
- ⑥宿泊施設の誘致・設立・運営（年商2,893万円）
- ⑦観光コンテンツの磨上げ（コトカウンターの設置）（年商5,544万円）
- ⑧起業創業者をサポートするチャレンジショップの運営（年商5,000万円）
- ⑨援農プログラム「ワヅカナジカン」の再構築（年商900万円）
- ⑩生きるための和束実践塾の開校・運営（年商1,042万円）
- ⑪和束ファンコミュニティの創設・運営（年商1,560万円）

合計3億5,250万円

Action & Schedule

(11-1) 今後のアクションとスケジュール

「茶源郷TeaPark」の設立には、様々な準備と関わる関連当事者へ向けての調整が必要となります。3つのフェーズ（準備期・設立期・拡大期）で段階的に、必要機能を実装していきます。

